

英國文明史

三四

9

24

003517-002-6

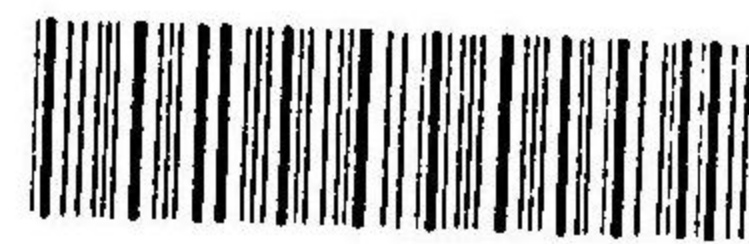
9-24

英國文明史（1～6編）

伯克爾／著

M12

ACD-0033





東 京 圖 書 館

一 冊	二 四 號	二 架	九 函			
				屬	類	

五

伯克爾
氏著

英國文明史

土居光華
萱生奉三

全譯 第貳編下

全上



天然ノ光景

人心ノ發顯

思想ノ貯積
ト分布

歐洲ニ先ツ所ノ諸洲開化ノ氣候食物及地質三者ニ感
 動セラレタル形狀ハ已ニ説明シ了レハ是ヨリ更ニ論
 述セシト欲スル所ノ者ハ其他身外事物ナリ是レ余カ
 前ニ夫然ノ光景ト云ヘル稱名ヲ下シタル者ニシテ各
 箇人民ノ心思ヲ引誘シ其國々ノ思想ヲ造リ遂ニ法教
 工藝文章等之ヲ一語ニ約スレハ人心ノ發顯ニ種々
 異別ヲ與フル所ノ身外事物ノ功效ヲ云フナリ扱テ氣
 候食物及地質ハ財貨ハ貯積ト其分布ニ關係シ天然ノ
 光景ハ思想ノ貯積ト分布ニ關係ス前ニハ人ハ形體上
 ノ感觸ヲ論シタリ茲ニハ人ハ心思上ノ感觸ヲ論セシ

天竺人ノ思想

天然ノ光景
ト入ノ心思
ノ關係

天然ノ光景
分テニト為ス

トスルナリ、前論ハ余カ力量ハ及ハ所ヲ盡シ又私カニ
方今知識ハ点ニ於テ、其極度ヲ盡シタレハ、亦聊カ餘蘊
ナカルヘシ、然レモ天然ノ光景ト人ノ心思ノ關係ヲ論
スルニ於テハ、其推究スヘキハ事理ハ廣大ナルト、其拾
扱スヘキハ材料多クナルヲ以テ、其成績ニ於テ、又大ニ
安心セサルモハ、ハ、故ニ余今切近ハ解ヲ以テ此論ハ
蓋底ヲ極メタリト満足スルニ非ズ、唯僅ニ此身外事物
ハ人心ヲ感動シ自然ハ運轉ヲ妨ケ自然ハ開進ヲ抑塞
セ、造化法制ハ一二ヲ條疏スルハ、其、其餘ハ、余カ企テ
及ハ所ニアラサルナリ、
余ヲ以テ之ヲ考フレハ、天然ノ光景ハ、今テニト為サハ

想像カ
理會カ

ルヘカラス、其一ハ想像ヲ煽動スルモノニシテ、其一ハ
人心ヲシテ物理ヲ考察セシムルモノナリ、何トナレハ
能ク權衡ヲ持スル人心ニ在テハ、想像カト、理會カト、共
ニ其平正ヲ操リ、互ニ相補助スルモノナレモ、人民ノ過
半ハ理會カ甚ク微弱ニシテ往々想像カヲ抑ヘ、其跋扈
ヲ制スルヲ能ハサルモノナリ、然ルニ開化ノ上進スル
ニ隨テ、漸ク此不權衡ヲ醫シ、矇昧世代ニ於テ、己ニ專横
ヲ極ムル所ノ想像カノ權勢ヲ剝殺シテ、之ヲ理會カニ
交付スルモノナリ、今此ノ理會カ、終ニ其強大ヲ專ヲニ
シ、却テ想像カヲ撲滅スルニ至ルノ時アリヤ、否ヤノ問
題ニ及テハ、實ニ重要ノ事件ナリト雖モ、是レ方今智識

ノ度ヲ以テ、恐クハ辨明スヘカラサルモノナリ、然ルニ
現時ヲ以テ往時ニ比スレハ、想像力大ニ束縛ニ就クニ
似タリト云フベシ而シテ、其カ尚ホ甚ク強大ニシテ、萬國
賤愚ノ間ニ在テ、只感弱ノ弊風横行スルハ、ミナラズ凡
ソ文字アル人士中ニモ、亦舊添古慣ニ固著シテ、古昔ヲ
尊崇スルハ、惡弊ノ行ハルハ、アリ此惡弊久シク已ニ衰
弱ニ屬スト、雖能ク其自主ハ心ヲ挫キ、是非ハ決テ撓
マシ、自奮ハ氣カヲ拘束スルモノ多シ、亦以テ想像力ノ
勢威アルヲ明見スルニ足ルヘシ、

以上二節ハ天然ノ光景、人ノ心思上ニ感觸ヲ與フル
ヲ論ス、

畏懼驚怪

凡ソ造化ノ現象中畏懼或ハ驚怪ノ感ヲ起シ恟々自カ
ラ安ンセサラシムル者ハ、大ニ想像ヲ煽動シ、遂ニ理會
カヲシテ之カ奴隸ヲラシムルモノナリ、此時ニ當テ、人
皆我微弱固ヨリ造化勢力ノ強大雄壯ノ比ニ非ルヲ覺
リ、遂ニ此ノ感覺ヲ以テ却テ其一身ヲ使役シ、只其ノ四
方八方ヨリ圍繞襲ヒ來ル所ノ無數妨碍ノ控制シ難キ
ニ屈シ、何ニ由テ此等強大現像ノ發起スルヤノ理ヲ討
究セントスルノ念ヲ發セサルモノナリ、然ルニ、造化ノ
勢力、稍軟弱ナル地方ニ於テハ、人々皆自ラ怙恃ノ心カ
ヲ發起シ、却テ我ヨリ四方八方ニ勇進シ、自己ノ權威ヲ
振テ得ヘク、且又其現象ノ馴致シ易キヲ以テ、之ヲ試

怙恃勇進

造化ノ大法

驗シ之ヲ吟味スルノ容易ナルヲ以テ、愈々考察ノカ
ヲ振興シ、遂ニ造化ノ現象ヲ分疏シ、之ヲ其主宰セル所
ノ造化ノ大法ニ歸セント欲スルニ至ルモノナリ、
以上一節ハ、地方ノ模様ニ由リ、造化、人力、互ニ相優劣
アルヲ論ス、

身外事物

天然ノ光景ノ此ノ如ク人心ニ感觸ヲ與フル形狀ヲ觀
ルルハ、歐洲ニ先ツ開化ハ天然ノ光景最モ著シク最モ
怖ルヘクシテ、且事物最モ人ニ害アル所ノ熱帶地方、及
ヒ其近傍ニ限リシノ奇ニ驚クヘキナリ、亞細亞、亞弗
利加、亞米利加ニ於テハ、身外ノ事物其怖ルヘキ、歐洲ヨ
リモ更ニ一層著シク、唯山嶽、江河等固定シテ動カサル

現象ノミナラス、地震、暴風、疫癘ノ如キ忽然不定ノ現象
モ、亦此地方ニ多ク發起シ、且其害ヲ為スノ亦甚ク大ナ
リ、而シテ此等ハ災害ハ、即チ想像ヲ盛ニシ、疑懼ハ心ヲ増
長スルトニ於テ、亦其山嶽、江河ハ秀傑ナル形狀ト一般
其功效ヲ同スルモノナリ、何トナレハ、妄像ハ、人自ラ其
理由ヲ識別スルノ能ハサルヨリ生スル者ニシテ、其雄
壯強大ニシテ容易ニ其理ヲ了解スル能ハサルモノハ
即チ想像ヲ煽動スルノ具ナレハナリ、而シテ熱帶地方
ハ、此類ノ事、其他諸國ヨリモ夥多ナルヲ以テ、想像モ亦
隨テ盛ンナリ易キナリ、今益々此理ノ明白ヲ要スル為
メ、二三ノ例ヲ掲擧シテ、以テ讀者ニ告ントス

以上一節ハ、身外ノ現像ノ最モ強大ナル地ハ想像力
必ス理會力ヨリ盛ナル所以ト、古代開化ノ此レニ因
テ起リシ所以ヲ論ス、

地震

畏懼驚怪ノ心念ヲ增長セシムル所ノ身外ノ諸現象中、
地震ハ人命ヲ傷フノ多キト、其發ルノ忽然ナルトヲ以
テ最モ怖ルヘキモノ、一トセリ蓋シ地震ノ發動スル
ヤ、其前必ス空氣中ニ變動アリ、直ニ動物ノ神經ニ感觸
ヲ與ヘ、其智力ヲ傷フノ理アルニ似タリ然レ是ハ姑之ヲ
措其人ノ心思ノ方向ヲ誘ヒ、其思想ノ習癖ヲ造リ作ス
ニ至テハ、決シテ疑ヲ容レサルナリ、而シテ其災害ノ為
メ惹キ起ス所ノ恐怖ハ、想像ヲ烈シクシ、理會ノ力ヲ消

滅シ、人ヲシテ昏々瞑々ノ中ニ沈迷淪溺セシムルモノ
ナリ、又地震ハ其災害ノ重複スルニ隨テ、恐怖ノ心ヲ鈍
ラサス、却テ之ヲ銳クスルモノナリ、白露ハ、其他諸邦ヨ
リ、震災最モ繁キ地ナリ、故ニ其土民ハ、其震災ニ遇フニ
隨テ愈々恐怖ノ心ヲ増加シ、時トシテ、其恐怖、殆ント身
ヲ置ク所ナキニ至ルアリ、斯ク其土民ノ心、絶エス危懼
憂悶ノ中ニ沈迷スルヲ以テ、其酷烈ノ災害ニ遭遇スト
雖之ヲ遁逃スルノ方術ヲ看出スルヲ能ハス、又事ノ理
由ヲ解スルヲ能ハサレハ、自ラ其賤劣無能ヲ悟リ、且其
怙恃スル所ノ乏キヲ覺ス、茲ニ於テ危懼愈々甚シク、妄
想益々盛ニシテ、遂ニ大ニ理外ハ理ヲ求メ、空瞑ハ中ニ

鬼神

神秘見ルハカラサル者アリ、之ヲ指令スルト思ヒ始
テ鬼神ヲ信スルニ至ル是ハ則チ迷溺ハ原由ニシテ之
ハケレハ此ハ迷溺ナル者ハ曾テ萌生セサル所ハ者ハ
ルヘシ

此他此例ヲ求ント欲セハ、此災ノ甚夕稀ナル歐洲ニ於
テモ尚ホ一二發明スルニ足ルモノアリ、似太利及ヒ、西

班牙萄萄牙ハ、其他諸邦ヨリ、地震及熾火山等ノ破裂最
バ多ク其害亦最モ甚シキ地ナリ、乃其迷溺最モ盛ニシ

テ其權勢ヲ樹立シタルハ、則チ此地ニシテ、耶蘇教ノ腐
敗ヲ釀生シタルモ亦此地ニアリ、而シテ數百年間迷溺

ノ城塞ヲ占メタルモ亦茲ニアルナリ、又是ノミテラス
尚ホ身外ノ現象ト、想像ノ結合ノ間ニ互ニ相關涉アル
所ノ一証ニ供スヘキモノアリ、今概シテ之ヲ云フニ、文

文雅ナル藝

術

實用有益ナル學術

雅ナル藝術歌舞音曲詩文彫ハ、多ク想像ノ力ヨリ産シ
實用有益ナル學術ハ、多ク理會ノ力ヨリ生スル者ナリ、
然ルニ、近世歐洲ニ其名ヲ得タル畫工ハ、皆以太利西班

牙ヨリ出テ、又其大家ト呼ハレタル彫工、亦大抵此地ヨ
リ生セリ、學術ニ於テハ、以太利ヨリ數人ノ大家ヲ産出

セサルニ非スト雖、彫工及詩人ニ其數ヲ比較セハ、亦
甚夕僅少ト云ハサルヘカラス、又西班牙萄萄牙ノ二國

ニ於テハ、詩文ハ形容ニ其巧ヲ盡シ、想像ニ其妙ヲ極メ、

畫ニ至リテハ、往々古今ニ冠絶シタル名手ヲ出セリ、然ルニ理論ハ藝カハ甚微カタル者ニシテ、往古ヨリ現時ニ至ルマテ、全半島ニ於テ一人物理學者ハ記簿中ニ其功績ヲ存スル者ヲ見ス、又一書ハ能ク歐洲學術ハ上進ニ、光輝ヲ與ヘタルモノヲ見サルナリ、身外ノ現像、甚ク畏懼スヘキモノハ、想像ヲ煽動シ、迷溺ヲ鼓舞シ、遂ニ智識ヲ抑塞セル所ノ例証尚ホ一層明瞭ナルモノアリ、矇昧無智ノ民間ニ於テハ、總テ大危害ノ事ハ、理外ノ理トシテ之ヲ鬼神ノ所為ニ歸シ、大ニ崇敬ノ心ヲ發起シ、其災害ヲ甘受スルノミナラス、之ヲ祭祀祈禳スルニ至ルヲ以テ常トセリ、是レ蠻族ノ常態ニシ

猛獸毒蟲

テマラバルノ森林中ニシツシ人種ノ中、往々此例アリ、此他蠻族ノ事ヲ熟知スル所ノ人ハ、尚多ク此ノ如キ例ヲ見ルアルヘシ、或ル國ニ於テハ、其住民畏懼迷溺ハ甚キヨリ、猛獸毒蟲ヲ殺ス下ヲ嫌忌シ、其猛獸毒蟲ハ人ニ兇害ヲ為スヲ以テ却テ討罰ヲ脱シ、無事安息ニ其生ヲ得ルニ至レリ、

歐洲ニ先ツ所ノ諸州ノ開化ハ、我歐洲ノ開化ト大ニ其趣ヲ異ニシ、無數ノ困難ト争鬪セシト斯ノ如ク、兇惡ナル動物、猛烈ナル地震、及暴風等、其餘諸災ノ人ニ損害ヲ與フルモノ甚ク盛大ナルヲ以テ、人心其ノ安穩ヲ失ヒ、常ニ憂悶ノ中ニ屈滯セラレ、遂ニ其ノ國貨ヲ鎔成シ生

命損傷ノ如キハ、輕少瑣末ノ患トシテ、敢テ顧慮スルコトナキニ及ヘリ、其ノ極ヤ人ノ心思ノ方向ヲ誘ヒ想像ヲシテ、理會カヲ壓伏セシメ、考察ノ心ヲ鈍ラシ、妄信ノ念ヲ銳シ、遂ニ身外事物ノ原因ヲ條疏穿鑿スルハ、心ヲ怠リ、只管ラ之ヲ鬼神ハ所為ニ歸スルニ至レリ。
以上三節地震火山等總テ危險ノ事ハ、想像ヲ煽動スルヲ論ス、

疾疫

今、余是等ノ諸國ヲ通觀スルニ、事物悉ク此弊害ヲ翼成セサルモノナシ、熱帶地方ヲ以テ温熱地方ニ比スレハ、人民大抵其健康ヲ保テ難ク、且疾疫ノ行ハレ易ウシテ、其至ル亦荐リナリ、人情其死ニ臨ンテ、鬼神ヲ祈リ、冥助

ヲ求ムルハ、平常ヨリモ更ニ一層急ナルモノナリ、蓋シ吾人全ク來世ノ事ニ於テ知り得サルモノナレハ、一旦卒然暗冥不測ノ境ニ臨ムニ當テ、縱令膽氣壯烈ノ人タリトイヘド、矢志憂念スルハ、又異シムニ足ラサルナリ、人生此ノ異變ノ際ニ在テハ、勢常理ヲ以テ推測ス可カラサルモノアリ、故ニ妄想此際ニ乘レテ獨リ其勢力ヲ恣ニシ、縱横至ラサル所ナシ、茲ニ經テ物理穿鑿ノ作用全ク盡キ、更ニ理外ノ理ヲ臆測スルニ至ルハ、亦自然ノ勢ナリ、是レ宇内何レノ國ニ論ナク、猛烈ナル疾疫ノ横行スル地ハ、必ス惑溺ノ旺盛ナル地ニシテ、理論ヲ壓服シ、妄想ヲ崇ムル地方ナリ、故ニ各國愚民、大約慘毒ノ疾

疫及卒然詭幻ノ症アル者ハ皆之ヲ鬼神ノ所為ニ歸ス
ル、普通ノ流弊ナリ、歐州ニ於テモ、疫癘ヲ以テ神怒ノ
顯明ナリト云フ説アリ、一時ハ行ハレタレモ已ニ久シ
ク衰弱ニ趣ケリ、然ルニ尚ホ開化隆盛ノ國ニ於テモ、未
タ全ク盡キサルモノアリ、左テ此種ノ惑溺ハ、醫術尤モ
拙劣ナル國或ハ疾病最モ多キ國ニ於テ最モ強大ナル
者ナリ、故ニ各國唯々此一アル國ト雖モ、其惑溺ハ實ニ
敵ス可ラサル者ナリ、況ンヤ、此ニヲ兼併シタル地方ニ
於テヲヤ、但シ矇昧蠢愚ハ民間ニハ、非常ハ疾疫ハミナ
ラス、平常ハ疾病ニ至ルマテ、皆之ヲ善神惡神ハ所為ニ
歸セサル者ナリ、是レ歷々其證アリテ、余ハ確信スル所

ナリ、

然ルニ、茲ニ又熱帶地方ニ於テハ身外ノ事物其不幸ノ
感觸ヲ以テ人心ヲ引誘シタル所ノモノアリ、亞細亞中
最モ改良ノ高度ニ進達シタル地ヲ以テ、歐州中最モ開
化ノ地ニ比スレハ、造化種々ノ原因ヨリ、病毒自カラ多
ク、其禍且荐リナリ、唯々此一事ノミヲ以テモ、其國ノ人
質ニ於テ著明ナル成果ヲ生シタルト亦疑ヲ容レサル
ナリ、尚此他既ニ論述セシ如キノ事情ヨリ、人心ヲ感移
シ、其害ヲ加ヘタルハ、又枚舉ニ遑暇アラサルナリ、是レ
ノミナラス、屢々歐州ニ流傳シ、其人民ヲ惱マシメタル
大疫病ハ、大概彼ノ誕生ノ地ナル東方ヨリ發起セリ、故

誕生ノ地ル
耶蘇降生ノ
地ヲ指スナ
リ

ニ東方ハ、其害ヲ蒙ルヲ殊ニ甚タシトス、方今歐洲ニ行
ハル、所ノ慘毒ナル疾病ハ、實ニ歐洲ニ原起セル者極
テ少ナシ、偶々最モ猛烈ナル者アレハ、必ス紀元年代後
熱帶地方ヨリ輸入シタル所ノ者ナリ、

以上三節健康保ヲ難キ地ハ、即チ想像盛ナル地ナル
ヲ論ス、

是等ノ事實ヲ總計スルキハ、歐洲外ノ開化ニ於テハ、身
外ノ事物悉ク皆想像ノ勢力ヲ張大ニシ、理會ノ勢力ヲ
軟弱セシト云フヘシ、方今具備セル所ノ材料ヲ以テ之
ヲ權セハ、此大法則ノ其ノ將來永遠ノ作用ヲ明ニスル
ヲ得ヘク、且歐洲ニ於テハ、全ク此ト相背反セル所ノ

一法アリテ常ニ此大法則ニ背反スル所ノ景狀ヲ發顯
來所ノ法ヲ示スヲ得ヘキナリ、左テ歐洲ニ於テハ、身
外ノ現像概シテ想像ノ力ヲ限畫シ、理會ノ力ヲ旺張シ、
人ヲシテ自己ノ力ニ怙恃セシメ、推原究理ノ精神ヲ慙
愚スルヲ以テ、智識進步ノ順便ヲ惹キ起セリ、此究理ハ
精神ハ常ニ上進シテ止マサル者ニシテ、將來ハ開進モ、
亦總テ之ニ屬スヘキ者ナリ、

然リト雖、余歐洲ノ開化ト、其他諸州ノ開化ト其形狀
ヲ異ニセシ、所ノ造化ノ法制ヲ詳悉シ能フト云フニア
ラサルナリ、今是等ノ大事ヲ完了セント欲セハ、先ツ造
化○法○制○ノ○真○理○脈○絡○ヲ○論○究○シ、且尋常讀者ノ心服ヲ求ム

造化法制ノ
真理脈絡

ル為ニ又逐一其確例ヲ舉ケテ之ヲ証明セサル可ラス、
 是レ、談博ハ學問ト、精透ハ考察ヲ兼有スル者ニ非レハ、
 能ハサル所ニシテ固ヨリ一人一己ハ為シ得ル所ニ非
 サルナリ、然ニ考察力ニ富ミ、智識ヲ有シ、能ク史中ノ事
 理ヲ推究スル者ハ、其涉臘ノ廣ニ從テ、自ラ格外ノ見ヲ
 リ亦自ラ其見ヲ同フセサル者ノ如クナレ、固ヨリ余
 カ説ク所ノ大綱ヲ變易スルニ至ラサルヘシ、夫レ余ノ
 論述セシ所ノ大綱ヲ舉レハ、其一ハ身外ノ現象中感動
 ヲ人心ニ與ヘテ、其想像ヲ鼓舞スル者ト、其一ハ他州身
 外ノ現像ハ、歐洲ヨリ其數甚タ多キト、二ツナリ、故ニ
 想像ノ勢力ヲ得タル地ニ於テハ、他ノ之ニ抗拒スル

大綱二

事物アリテ、其功效ヲ損滅スルニ非レハ、必ス一定ノ弊
 害ヲ生シ、一定ノ成績ヲ奏スヘシ、然ニ抗拒其功效ヲ損
 滅スル原因ノ有無ハ、此ノ二大綱ノ大條理ニ於テ始ヨ
 リ其信ヲ妨ケサルモノナレバ、前論既己ニ完全ヲ極メ
 タリト云フヘシ、且冗長ハ論說ハ、誤謬ニ陥リ易ク、又他
 人ハ非駁ヲ招キ易ケレハ、宜ク筆ヲ此ニ閣テ止ムヘキ
 ナリ、然リト雖、余カ右ニ論シタル真理ヲシテ、讀者ニ
 通曉セシメント欲スルニハ、又實地ニ行ハレタル一二
 ハ例ヲ掲テ之ヲ表明セサルヘカラス、是誠ニ己ムヲ得
 サルハ、勢ナリ、故ニ余今此ノ身外現像ノ文學法教及工
 藝ノ三大科上ニ大ニ感觸スル所以ノ景狀ヲ陳述スヘ

文學法教及工藝

希臘印度
ノ二國

然ニ其陳述短簡ヲ旨トスレハ、亦最モ適切ノ一例ヲ
撮テ、之ヲ證セサル可ラス、幸ニ希臘ト、印度トハ、材料甚
ク豐盛ニシテ、其反對モ、亦甚ク著明ナレハ、宜ク此二國
ヲ舉テ之ヲ證明スヘシ、

以上二節、熱帶諸洲ノ開化ハ、想像ニ因リテ感動セラ
レ、歐洲ノ開化ハ、理會力ニ因テ運轉セラレタルヲ論
ス、

印度ノ詩歌

先ツ印度古文ヲ觀ル片ハ、其國最モ繁盛ノ時代ト雖、
想像ノ勢力甚ク旺盛ナリシ所ノ證蹟ヲ明々發見スル
ニ至ルヘシ、大抵其大家ト稱セララル、者ハ、皆詩歌ヲ以
テ其國ノ人氣ニ適當ト為シ、專ラ詩歌ノ學ヲ修メ、曾テ

散文ニ及ハス、是ヲ以テ、文典、法律、歴史、醫書、算術、地理書、
心理學等ニ至ル迄、皆之ヲ詩語ニ綴リ、琅々誦ズ可ク、其
押韻殊ニ其妙ヲ弄スルニ似タリ、故ニ散文ハ全ク行ハ
レスト雖、詩學ハ盛ニ開ケタリ、就中梵語ノ節奏、頗ル
其變化ヲ極メ、其律度ノ繁雜ナルトハ、歐州諸國ノ詩歌
ニ於テ、未タ其比ヲ見サルナリ、

印度ノ文學ニ於テ、是ノ如キ習癖アルトハ、唯タ其ノ體
格ノミナラス、其精神ニ至テモ、亦之ニ同レキ者アリ、事
物皆實理實際ニ涉ラス、世上ノ形狀ヲ脫離シ、人間ノ道
理ニ拘束セラレスト云フモ、敢テ過言ニアラサルニ似
タリ、左テ印度ニ於テハ、想像更ニ其時其所ニ關セス、恣

ニ其勢力ヲ逞セサルナシ、ヲマヤヤトハフハラトノ如キ、最モ其國人ノ意ニ適合セル書編ノ中ニハ、最モ其著明ナルヲ見ルヘシ故ニ地誌年表志想ヲ着クヘカラサルモノト雖、皆其弊ヲ帶サルモノナシ、今其有名ノ書中ヨリ、一二ノ例證ヲ拔キ、讀者ヲシテ、歐州人心ノ之ト全ク相背反セル狀ヲ知ラシメ、且開化國民ニ於テモ、其妄信亦此ノ如キモノアルヲ知ラシムヘキナリ、想像ノ信實ヲ擾亂スル諸弊害中ニ於テ、其弊害上古ヲ妄信スルヨリ甚シキハナシ、上古ヲ尊崇スルハ、道理ノ言論ト相乖戾セル者ニシテ、空想ヲ以テ、邈然知ル可ラサルヲ妄信スルニアルナリ、是ノ故ニ、人智一層魯鈍

上古ヲ妄信ス

既往將來

黄金ノ世代

ナル世代ニ於テハ、此空想妄信ノ念一層敏銳ナリシトハ亦理ノ然ラシムル所ナリ而シテ、此空想妄信ノ漸ク衰弱スルニ隨テ、日新ノ精神愈々強大ト為リ、既往ヲ尊崇スルノ念、地ヲ拂テ去リ、將來ヲ期望スル感、其地位ヲ領スルニ至ルハ、又疑ヲ容ル、ニ足ラサルナリ、凡世界何ノ國ニ論ナク、古代ニ於テハ、既往ヲ妄信スルノ念、極メテ盛ナル者ニシ、其文學及俚談ニ於テ、判然其證蹟ヲ見ルヘキナリ、詩人ヲシテ、黄金世代ノ空像ヲ抱カシムルハ、乃チ往古ヲ妄信スルノ弊ナリ、黄金ノ世代トハ、姦邪形ヲ慝シ、刑罰用井ラレス、寰宇清麗、敢テ一点ノ塵埃ナキノ世ヲ云フナリ、神學者ヲシテ、上代ノ人ハ、皆純朴

敦厚ナリ、後世ニ至ルニ逮ンテ、人其高尚ノ地ヲ降リ、古
 人ニ及ハサルノ思念ヲ懷カシムル者モ、亦往古ヲ妄信
 スルノ弊害ナリ、又上代ノ人ハ、皆今代ノ人ヨリ純良ニ
 シテ幸福ナルノミナラス、其體格ニ於テモ、亦天然今世
 ノ人物ニ優越シ、軀幹頗ル長大ニシテ、且長壽ヲ保テ得
 タルヲ信セシムルモ、亦此妄信ヨリ出ツルモノナリ、
 此等ノ諸説ハ、皆原ヲ推シ理ヲ究ムルヲナク、只空想ニ
 由テ立ツル所ノ者ナレハ、何ノ國ニ於テモ、此説ノ廣狹
 ハ、想像ノ強弱ヲ測リ得ヘキノ尺度ナリ、今此尺度ヲ以
 テ、印度ノ文學ヲ測ルニ、愈々前論ノ真確ナルヲ覺ノヘ
 シ、凡ソ梵語書中ニ記載セル上代奇怪ノ功烈ハ、皆長大

想像ノ尺度

且繁雜ニシテ悉ク舉ルニ遑マラスト雖モ、今幸ニ短簡
 ニシテ茲ニ掲ケ得ヘキモノアリ、是レ其上代ノ荒誕無
 稽ヲ證明スルニ足ルヘキ好證ナレハ、宜ク載セテ以テ
 讀者ニ示スヘシ、抑世界各部ニ於テ、上古ノ人ノ長壽ヲ
 保テシテ、妄信スル原因ハ、古代ノ人ハ、萬事今代ノ人
 ニ優越セル者ト思フノ感情ヨリ發起スル者ナリ、耶蘇
 教徒ノ書中、及希伯教書中ニモ多ク此例アルヲ見タリ、
 然ルニ是等ノ書冊ニ騰録セルモノハ、之ヲ印度ノ書中
 ニ記載セル所ノ者ト相比例スレハ、亦大ニ長短夭壽ノ
 差アリ、只此ノ一事ニ於テモ、印度ノ想像ハ、他ノ各事ニ
 於ケルカ如ク、拔群勇銳ニシテ、共ニ馳騁スヘキノ對敵

ナキヲ知ルヘキナリ、左テ無數ノ奇話中ニ就テ、試ニ其一二例ヲ舉クルニ、印度ニ於テハ、古昔通常人ノ壽命ハ八萬歳ニシテ、神聖ナル人物ノ壽命ハ十萬餘歳ヲ保テリ、時或ハ此度ニ達セズシテ死スルモノアリ、又此度ヲ超ユルモノアリト雖、上古最モ昌榮ノ世代ニ在テハ、各種ノ人壽ヲ合シテ、其壽命ノ平均十萬歳ヲ以テ中數トス、其國ノ王ニシテ、其名ヨジシゲルトト云ヘルモノハ、在位二萬七千年ナリト云ヒ、又アラルカト名クル所ノ王ハ、在位六萬六千年ナリト云フ、然レ、大古ノ詩人ハ、其齡五十萬歳ニ達シタル者多シト云ヘハ、此二王ノ如キハ、實ニ夭折ト云ハサル可ラス、就中最モ奇ニシテ

壽命ノ平均
十萬歳

印度ノ法律

最モ驚クヘキヲハ、印度ノ史中ニ於テ、其名聲甚タ赫灼タル人物ノ履歷ナリ、此人ハ國王ト、神聖トノ位職ヲ兼併シ、純善高德ニシテ、其世壽モ亦實ニ長久ナリト云フナリ、生レテ二百萬歳ニシテ始メテ立テ王ト為リ、御宇六百三十萬年ニシテ其位ヲ退キ、後尚ホ十萬年ノ星霜ヲ此ノ世界ニ経タリトアリ、
印度人ヲシテ、事物稍々重大モノハ、總テ太古ニ歸セシメタルモノハ、皆往古ヲ妄信スルヨリ起ル所ノ弊習ニレテ其ノメニユノ憲法ト名クル印度ノ一大法律書ハ、其編制ノ古キヲ、殆ント三千年ナラントス、然ルニ印度ノ記録家尚ホ之ニ満足セサルヲ以テ實著ナル歐人ノ

想像ハ曾テ至リ得サル所ノ數ヲ以テ之ニ附加セリ、而
メ其國ノ正確ト稱道スル所ノ說ニ由レハ、^メニユノ憲
法ハ、今ヲ去ル^レ、凡ソ二十億萬年前ニ神ノ授クル所ナ
リト云ヘリ、

右ニ掲クル所ノモノハ、印度人ノ太古ヲ妄信シ且其壯
大ヲ妄想シ、今世ヲ賤ム所ノ一端ナリ、此惡弊ハ獨リ文
學上ニ存フルノミナラス、法教、工藝ノ上ニ於テモ、皆此
ノ弊風ヲ因襲シ、道理ヲ壓着シテ想像ヲ盛ニセサルモ
ノナシ、故ニ其神學ノ說ヨリ神ノ形質性行、及宮殿堂塔
ノ構造ニ至ル迄、皆怕ルヘキ雄大奇異ノ形狀ヲ表出セ
リ、亦以テ、印度人其腦中ニ感動スル所ノ現像如何ヲ推

印度神學

知スヘキナリ、

是等ノ形狀ヲ以テ之ヲ希臘ノ形狀ニ比較スルキハ、前
ニ述フル所印度ノ事理愈々明白ナルヲ覺フヘシ、希臘
印度ト全ク相反對セル國ニシテ、印度ニ於テハ、造化ノ
勢力皆雄偉壯大ニシテ、實ニ驚愕スルニ足ルト雖、^{希臘}
臘ニ於テハ、其力皆微小軟弱ニシテ、驚クヘキモノ甚タ
少ナシ、抑亞細亞開化ノ中心ナル、印度ノ形狀ハ、人間ノ
氣力、其圍繞セル身外現像ノ為ニ抑壓セラレサルモノ
ナシ、今其ノ大約ヲ談セハ、只其ノ熱帶ノ地ニ免ル可ラ
サル、忽然不意ノ危險ノミナラス、巍々風雲ヲ吞吐シ白
雪天ニ狹ムノ高嶽アリ、又其嶽麓ヨリハ滾々湧キ出テ、

漫々海ニ達シ、龍蛇出没、陰晴測スヘカラサルノ無盡ノ
長江大河アリ、而メ其河道ノ流通ハ、固ヨリ人工ノ以テ
移轉スル所ニアラサレハ、古來未タ曾テ橋梁ヲ架スル
不能ハス、又人間ノ經過スル不能ハサル大森林アリ、之
ヲ繞リテ渺茫タル草原、其他又荒涼無邊ノ沙漠アリ、事
物皆人ヲシテ、其己ノ其微弱ヲ悟ラシメ、造化ノ雄大ヲ
感覺スル為ニ標示セルモノ、如シ、又外ニハ其二面ヲ
抱キ浩蕩津涯ナキ大洋アリテ、逆浪怒號、颶風屢々起リ、
且其發スル忽然不定ナルヲ以テ、豫メ其害ヲ防クニ方
術ナシ、斯ク宇内最モ危險ノ海洋ニシテ、且ツ嶺絶斯河
口ヨリ其半島ノ南端ニ至ルマテ、沿海更ニ碇泊ニ供ス

ハキ、濶大安全ナル港灣ナキノミナラス、僅カニ其難ヲ
避クルニ足ルハキ、一ハ小灣ヲモミルナキハ、宛モ身外
ハ萬物其力ヲ戮セテ、共ニ印度人ノ氣力ヲ挫折セント
圖ルニ似タリ、

然ルニ、希臘ニ於テハ、天然ノ光景、印度ト全ク異ニシテ、
其形狀モ亦自カラ別天地ノ如シ、希臘モ亦印度ト同シ
久半島ノ國ナレド、印度ニ於テハ、萬物悉ク雄大ニシテ、
怖ルヘク驚クヘケレド、希臘ニ於テハ、萬物皆微弱ニシ
レテ、狎且玩フヘシ、希臘全部ハ、葡萄呀ヨリ稍々小ニシ
テ、現今温度斯坦ト稱スルモノ、凡ソ四十分ノ一ニ過
キス、而其國ハ海中ニ突出シ、東ハ小亞細亞、西ハ以太利

南ハ埃及ト各短近ノ船路ニ由テ、相往來スヘシ、此ノ如ク、身外ノ危險、皆熱帶地方ニ比スレハ、甚タ少ナク、且氣候最モ善良ニシテ、人體ノ健康ニ適合シ、地震ノ災、暴風ノ難、猛獸毒蟲ノ害等亦甚タ少ナルノミナラス、他天然ノ光景皆之ト同一ノ形勢ニシテ造化頗ル惰怠ヲ極クルガ如ク、又山嶽一トシテ雪際ニ達スルモノナシ、其最高山ト稱スル者ト雖モ、喜馬拉山ノ三分ノ一ニ及ハス、故ニ河川亦亞細亞ノ山嶽ヨリ流下スル如キ、長大ナルモノナシ、南北希臘共ニ僅々數條ノ河水アルノミ而シテ、其川水ハ平日徒渉ヲ許シ、夏間ハ屢々渴絶シテ水ナキヲアリ、

心ノ自動

二國此ノ如ク身外現像ノ差異甚キヲ以テ、人心モ亦隨テ著明ナル差別ヲ生セリ、蓋シ思想ハ一ハ心ノ自動ヨリ起リ、一ハ身外事物ノ引誘ヨリ起ル者ナレハ、其原由ノ一方ニ於テ是ノ如キハ大差異アレハ、其結果ニ於テモ亦自カラ大差別ヲ生スルハ、又理ノ自然ナリ、印度ニ於テハ、身外ノ事物悉ク人ヲシテ怯怖ノ情ヲ生セシメ、希臘ニ於テハ、人ヲシテ怙恃ノ心ヲ生セシム、故ニ印度人ハ常ニ驚愕畏懼ノ中ニ沈淪シ、希臘人ハ常ニ勇往進取ノ点ニ向テ運動セラルナリ、印度ニ於テハ、身外萬種ノ障礙甚ク夥シク、其勢亦甚ク怖ルヘク、且迴避シ難キヲ以テ、遂ニ理會ノ力ヲ表發スル能ハス、却テ之ヲ鬼神

ノ所為ニ歸シ、愈々其想像ノ勢力ヲ烈クシ、益々理會ノ
カヲ壓伏セリ、希臘ニ於テハ、其景像全ク之ト相反スル
ヲ以テ、又隨テ其ト相反スル所ノ成果ヲ生スルニ及
リ、希臘ハ、身外ノ障碍其勢甚微弱ニシテ、迴避シ易キヲ
以テ人自ラ怯怖ノ心少ナク、迷溺モ亦隨テ淺シ、故ヲ以
テ、推原究理ノ心ヲ養成シ、始テ物理ノ學問ヲ攻ムルニ
至レリ、是ニ於テ人々益々其力ノ活潑ナルヲ覺リ、勇氣
ヲ奮ヒ、事物ノ理ヲ檢査セントスルニ及ヘリ、而シテ、此
進取ノ氣象ハ、他ノ身外障碍ノ盛大ニシテ、遂ニ自奮ノ
氣力ヲ抑塞シ、人心ヲ迷溺ノ中ニ沈淪セシムルノ地方
ニ於テ、企望ス可ラサルノ功績ヲ奏セルナリ、

印度希臘ノ
經文

印度ノ經文ヲ以テ、希臘ノ經文ニ比スルニ、又其ノ慣習
想像、其法教上ニ感觸スルノ明了ナルヲ知り得ヘシ、
左テ印度ノ經文ハ、皆熱帶諸國ノ流弊ニ浸染シテ、其原
ツク所ハ、怯怖ノ感情ニシテ、此怯怖モ、亦尋常普通ノ類
ニアラス、最モ荒誕ナルモノナリ、今其一般人情ノ如何
ヲ知ラント欲セハ、溫度斯坦、教書、及ヒ、其古傳ヲ把テ、其
蹟ヲ示スヲ用井ス、其人民ノ尊信スル所ノ神ノ容貌ヲ
一覽スルモ、亦其証ヲ顯明スルニ足ルベキモノ多シ、古
來印度ニ於テ、祭祠セラル、神像ハ、悉皆畏懼驚駭スヘ
キ形狀ヲ寫シ出サル、モノナシ、其人民ソ尊崇スル諸
神ノ中、其最モ信心ノ厚キ神ハ、シバナニシテ且ツ其傳甚

印度ノ神像

遠く、ブランノ初テ此地ニ住セシ時、其土人ノ傳フル所ナリト云ヘリ、其説信スルニ足ラスト雖、其古ニシテ崇信ノ久シキハ、亦疑ヲ容レサルナリ、蓋シブアマ及ビビシニユハ、併セテ温度斯坦ノ三神ト號スル者ナリ、其容貌タルヤ、寔ニ奇怪驚クヘキモノニシテ、此ノ如キ像ヲ寫シ出スハ、熱帶地方ノ人民ノ想像ニアラサレハ、固ヨリ形容スルヲ能ハサルナリ、其土人ハ、シバヲ以テ兇惡ノ神トシテ言傳ヘリ、其像一面三大眼ヲ備ヘ、蛇ヲ以テ帶トシ、手ニ鬮髀ヲ擎ケ、人骨ヲ以テ作りタル頸環ヲ懸ケ、虎皮ヲ著シ、而シテ其左肩ニハコブラ、シカペラ東印産スル度ニ掉然頭ヲ擡ケテ、其神性ノ兇惡ナルヲ發表セリ、

且此神ハ、常ニ狂人ノ如ク、處々ヲ周馳セルト言傳ヘリ、又此ノ怪異ノ神ニ、其名ヲトールガ一名カリ、其他數箇ノ呼號アル一妻アリ、其體ハ深藍色ニシテ、其掌中ハ段紅ナリ、其紅ナルハ血ヲ貪ホリ飽カサルノ意ヲ表シタルナリ、又四手アリテ、其一手ニハ、巨人ノ項骨ヲ捧ケ、其猛烈ノ狀ヲ極メタリ、其舌甚ク長ク、吐テ虹ノ如ク、犧牲ノ首ヲ以テ其腰ヲ連綴シ、又青蒼タル死頭ノ貫珠ヲ以テ、其頸ノ飾トナセリ、今却テ眼光ヲ希臘史上ニ注クニ、其法教猶ホ矇昧幼稚ナル世代ト雖、未タ曾テ是ノ如キ、奇怪驚怪ノ跡ヲ見サルナリ、蓋シ、希臘ニ於テハ、人心ヲノ怯怖ノ感ヲ起サ

シムル者元ト甚タ少ナルヲ以テ、之ヲ事物ニ像トルモ亦甚タ少ナケレハ、其法教上ニ其意ヲ發表セサリシモ亦自然ノ理ナリ、總テ亞細亞洲ノ開化ニ於テハ、其情常ニ人間ト神ト人間ヲ懸隔セシメントスルニ在ツテ、希臘ニ於テハ、其勢常ニ之ヲ親密ナラシメントスルニ在リ故ニ温度斯坦ノ神ハ悉トク怪異ノ形狀ヲ帶サルモノナレビシニユニ四手アリ、ブラマニ五面アリ、其他諸神ニ至リテモ皆ナ奇怪ノ狀ヲナサザルモノナレ、希臘ノ神ハ大ニ之ト反シ、全ク人間ト其體容ヲ異ニセス、若シ希臘ノ彫工其神ヲ刺スルニ、人間ノ形狀ヲ以テセスシテ印度ノ如キ怪異ノ刑狀ヲ以テスルハ、恐クハ希臘

希臘ノ神像

希臘ノ神說

職ノ人之ヲ顧ミル者ナカルヘシ、蓋シ之ヲシテ人類ヨリモ、強雄秀麗ナラシムヘシト雖、必ス之ト相異ナルヲ得ス、然ルニ希臘人ハ意思ニ適合スル所ヲ以テ、試ミ之ヲ印度ニ移シ、人類一樣ノ神像ヲ彫刺セハ、印度人又之ヲ顧ミサルベシ

彫工神ヲ像トルノ事ニ於テ、二國ノ差異是ノ如クナレハ、隨テ神ノ傳記ヲ作ルニ於テモ亦之ニ均シキ者アリ、印度ノ書ニハ、想像力ヲ盡シテ神ノ威力ヲ説キ、其說愈怪異ニシテ、愈常理ヲ脱レテ、愈為スヘカラサルノ怪アレハ、之ヲ讚賞スルヲ亦愈盛ナリ、然ルニ希臘ノ神像ハ、唯人ト相異ラサルノミナラス、其性質、事業、及其嗜好ニ

至テモ、亦人ト相異ナルヲナシ、亞細亞ニ於テハ、身外ノ
事物、悉ク人ヲノ怯怖ノ感ヲ煽動セシメ、人心常ニ畏懼
ノ中ニ沈ミ、遂ニ其國俗國風ヲ為シ、人力決シテ神力ニ
敵スヘカラサル者トナシ、愈神ト人トノ間ヲ懸隔スル
ニ至レリ、歐洲ニ於テハ、身外ノ事物、悉ク穩靜ニシテ活
潑ナラサレハ、人々自カラ危懼ノ念少ク、神ヲ以テ已レ
ノ類ト為シ、更ニ相畏ル、所ナシ、蓋シ、歐洲人ト雖、熱
帶地方ノ危險中ニ生育セラレハ、必ス、其身外事物ハ、為
マニ、自カラ其氣カヲ挫折セラレ、之レト同一ハ、成績ヲ
奏スルハ、又疑ヲ容レサル所ナリ、故ニ希臘人ノ神像ヲ
以テ印度人ノ神像ニ比較セハ、其奇異太ク、殆ント

闇夜ヲ出テ白晝ニ移ルカ如ク、亦別世界ニ生スル如シ
凡テ希臘人ハ、平常其心思ニ感觸スル所ヲ取テ、直ニ寫
シテ之ヲ神像トナセリ、故ニ婦人ノ清節ハ、シアナニ擬
シ、其美麗ト慾情ハ、ベニユスニ表シ、其傲慢ハ、シアノニ
擬シ、其才能ハ、シネルバニ表ス、又是ト同一理ニシテ、尋
常ノ職業ヲ以テ神ノ職業ニ適命セリ、ネプテコンハ、舟
師ニシテ、コルカンハ、鍛工ナリ、アポロロハ、時トシテ、ア
トトルヲ彈シ、時トシテ、詩人ト為リ、又時トシテハ、牧牛
者トナレリ、キユピトハ、弓箭ヲ携ヘ遊行放恣ナル童子
ナリ、ジュピトルハ、切愛深仁ノ王ナリ、メルクリーハ、倚
信スヘキ使者ト言ハル、トアリ、又有名ナル盜賊トシ

神人同類

テ、説明セラル、トアリ、
 神人ヲ同類ト為サントスルハ、又希臘法教ノ一癖ナリ、
 勇武ノ人ヲ崇尊シテ、之ヲ祭祠スル、トハ、始メテ希臘ニ
 起レリ、是ノ事ハ、熱帶地方即チ身外事物旺盛ノ地ニハ、
 決シテアラサル所ニシテ、印度古昔ノ教事ニ於テハ、曾
 テ其跡ヲ見ス、又埃及百峴西亞亞刺比亞諸國ニ於テモ
 亦同シク之ヲ見ル、トナシ、然ルニ、希臘ニ於テハ、身外ノ
 事物甚タ微弱ナルヲ以テ、人々ニ屈服スル、ト少ナク、氣
 カ自カラ旺盛、自己ノ力ニ倚信スル、トノ甚大ナルヲ以
 テ、草昧ノ世代ヨリ、人々ヲ敬シテ神トナシ、之ヲ祭祠スル
 事、大ニ行ハレタリ、而メ此風習、後チ羅馬教會ニ流傳シ、

益々盛ナリレテ見レハ、此事歐洲人ノ天性ニ適合シタ
 ルヲ知ルヘキナリ、但シ方今大ニ之ニ異ナル性質事情
 アリテ、偶像ヲ禮拜スルノ風習、漸次衰弱ニ就クト雖、
 此事既ニ斯ク成立シタルヲ見レハ、歐洲ノ開化ト、其他
 諸州ノ開化ト、其景況ヲ異ニシタル一證トナスヘキナ
 リ、

人カ鬼神

希臘ニ於テハ、事物皆人ノ氣力ヲ奮勵セシメントシ、印
 度ニ於テハ、事物皆人ノ氣力ヲ挫折セントスル、ト斯ノ
 如シ、今其ノ要ヲ撮スルキハ、希臘人ハ、人カニ倚依シ、印
 度人ハ、鬼神ニ依頼ス、希臘人ハ、理會シ易ク、制禦シ易キ
 者ト接遇シ、印度人ハ、理會シ難ク、制禦シ難キ者ト接遇

セリ、蓋シ印度人ハ身外現像ノ宏大勇壯ニ壓服セラレ、
理會力ヲ以テ想像力ヲ支配スルヲ能ハス、却テ之ヲシ
テ放恣亂行セシメタルナリ、余博ク宇内ノ史乘ヲ覽ル
ニ、推原究理ノ力ヲ以テ、想像拔扈ノ勢力ヲ剥殺シタル
ハ、希臘ニ至リ始メテ之ニ遭遇セリ、然ニ其想像ハ其威
力ノ甚シキヲ剥殺セラレタルノミニシテ、其氣力ハ依
然トシテ存在セルモノアリ、希臘ノ遺物ヲ見ルモ亦其
證トナスヘキナリ、故ニ希臘ノ如キハ考察力振張セラ
レテ想像其害ヲ恣ニスル能ハサルモ、力ガリ其平均其
權衡ヲ得ルニ於テハ實ニ充全ト云フヘキナリ、今此平
均果シテ調和ヲ得タルヤ否ヤハ、茲ニ之ヲ論セスト雖

考察想像ノ
調和

氏、希臘ニ於テハ彼ノ歐州ニ先テ開化ノ域ニ入タル諸
州ノ及ハサル所ノ考察想像ノ調和ヲ得シトハ、又疑ヲ
庸井サルナリ、余ヲ以テ之ヲ觀レハ此調和ノ後、想像尚
ホ其勢ヲ得ル者アリテ、推原究理ノ力ハ其威權ヲ逞フ
スルヲ能ハサルニ似タリト雖、氏要スル希臘ハ文學稍
此偏頗ヲ療治シ、極緊要ノ事件ニ就テ自己ハ力ヲ以テ、
自己ハ得失利害ヲ判斷シ、人間貴重ノ權利ヲ挽回スル
所ハ首唱タルハ其功實ニ偉大ト云ハサル可ラス、

以上十四節、印度ト希臘トヲ比較シテ之ヲ詳明ス
印度希臘ヲ拔粹シテ斯ク比較ノ具ト為シタル所以ハ
二國ノ事蹟條疏最モ分明整正ニシテ、且其材料富多ナ

ルヲ以テナリ然ルニ余ノ前説ノ如ク熱帶諸洲ノ開化ハ皆天然ノ光景ニ感觸セラレサル者ナシ中央亞米利加ハ其史傳闕乏其證少シト雖其國教ハ印度國教ノ體裁ト同一軌ニシテ其主トスル所ハ怪異ナリ黑西哥白露埃及等ノ人民ハ神ヲ像ルニ人ノ容貌ヲ以テスルトテ好マサルノミナラス又之ニ人ノ情性ヲ付スルヲ嫌ヘリ又其堂塔ニ至ルマテ其建築頗ル巨大ニシテ往々奇功ヲ極メ明々其ノ畏懼敬恭ノ情ヲ感銘セシメントスルノ意匠ヲ表セリ之ニ反シテ希臘ノ寺觀ハ皆微々弱少ニシテ塔宇ノ建築ニ至ルマテ一定ノ條理相行ハレ曾テ其ノ怪異ヲ見ス蓋シ熱帶ノ危險ハ其造營ヲ

造化ノ大手
語太妙

レテ宏壯雄大ナラシメ歐洲ノ穩靜ハ之ヲシテ軟弱ナラレタタルナリ今精ク此差異ヲ踪跡セシト欲スレハ一ニハ身外事物ノ雄大ニ壓迫セラレ想像ニ迷溺シ外形ニ引誘セラレタルモノト一ツハ其弱小ニ押馴シ考察ニ憤勵シ内情ヲ分拆セント欲スルニ至リタルモノトノ證蹟ヲ逐一對舉レテ其委曲ヲ陳述セサル可カラズ是固ヨリ此總論撮述ノ能クスル所ニアラス亦余ノ聞見ノ及フ所ニ非ス且余カ主トシテ辨明セシト欲スル所ハ蓋シ讀者ニ學問ハ方法ヲ示シ且ツ世ハ史家ニ何レハ地方ト雖モ造化ハ大手ハ吾人ノ頭上ニ在リ凡テ人事ハ史乘ハ獨リ身外事物ト對論シテ始テ能ク通

史家ノ為ニ
一新地ヲ開
拓ス是先生
一生ノ大事
業ニシテ後
學吾生ノ資
金ヲ把テ先
生ヲ鑄ント
欲スル所以
ナリ明治十
一年三月土
居光華著手
識

曉レ得ラル可キ一ヲ領セハムルニ在テ今已ニ史家ノ
為ニ討索ノ一新地ヲ開拓レ得タレハ先ツ筆ヲ茲ニ開
レ餘ハ讀者ノ慧眼ニ任セント欲スルナリ
以上一節中央亞米利加ヲ舉ケテ上論ヲ幫助ス

英國文明史第二編終

明治十二年二月廿八日御届
同 三月五日出版

定價六錢

譯者

東京淺草區今戸町廿番地

土居光華



同

同 小石川區新諏訪町十五番地

萱生奉三

出版人

同 日本橋區堀江町二丁目十番地

片桐起太郎



同

同 京橋區南傳馬町二丁目六番地

小林新造

大坂心齋橋通北久太郎町

同 南一丁目

同 備後町四丁目

尾張名古屋本町八丁目

東京日本橋通一丁目

同 通二丁目

同 通三丁目

同 淺草茅町二丁目

同 芝太神宮前

同 芝三島町

同 日本橋通二丁目

柳原喜兵衛

松村九兵衛

梅原龜七

片野東四郎

北畠茂兵衛

稻田佐兵衛

丸屋善七

北澤伊八

牧野吉兵衛

山中兵衛

小林新兵衛



東 京 圖 書 館

一〇	二二	九			
冊	號	架	函	屬	類

五

伯克爾
著

英國文明史

士居光華
宣生奉三
全譯

第三編
第一冊

土居光華
萱生奉三

全譯

第三編
第四編

HISTORY
OF
CIVILIZATION
IN
ENGLAND.

BY
HENRY THOMAS BUCKLE.

英國文明史

伯克爾氏著

一千八百七十二年倫敦出版

明治十二年五月出版

寶文閣藏版

伯克爾文明史總論目錄

第三篇

心理ノ法則ヲ發明スル爲メニ心理學ニ於テ導用セ
シ所ノ方術ヲ論ス

○前篇ヲ受テ、歐洲ト歐洲以外ヲ區分スル所ノ二
大要件ヲ論ス、六節

○歐洲歴史ニ於テハ、心理物理ノ二法則中ニ就テ、
心理法ノ緊要ナルヲ論ズ、二節

○心理學中ニ於テ、其ノ法則ノ二旨アルヲ論ス、五
節

○今古心理學ノ推究其ノ法ヲ得サルヲ論ス、一節

土居光華
瑩生奉三

全譯

第三編
第四編

HISTORY
OF
CIVILIZATION
IN
ENGLAND.
BY
HENRY THOMAS BUCKLE

伯克爾氏著

英國文明史

一千八百七十二年倫敦出版

明治十二年五月出版

寶文閣藏版

伯克爾文明史總論目錄

第三篇

心理ノ法則ヲ發明スル爲メニ心理學ニ於テ導用セ
シ所ノ方術ヲ論ス

○前篇ヲ受テ、歐洲ト歐洲以外ヲ區分スル所ノ二
大要件ヲ論ス、六節

○歐洲歴史ニ於テハ、心理物理ノ二法則中ニ就テ、
心理法ノ緊要ナルヲ論ズ、二節

○心理學中ニ於テ、其ノ法則ノ二旨アルヲ論ス、五
節

○今古心理學ノ推究其ノ法ヲ得サルヲ論ス、一節

第四篇

心理上ノ法則ハ、道德智慧ノ兩種アリ、而シテ社會ノ開進ニ就テ、其ノ感効孰カ最モ優ナルヤヲ論ス、

○心理ノ法則ヲ究ムルハ、心理學上ノ方術ヲ以テスルヨリハ、史學上ノ方術ヲ以テスルニ如カザルヲ論ス、五節

○社會ノ開進ハ、道德上ト智徳上ノ二途アルヲ論ス、一節

○道德智慧ノ元質ヲ論ス、一節

○天稟ノ性能ニ上進ノ例證ナキヲ論ス、一節

○道德智慧ノ上進ハ、唯其ノ生地ノ事情ニ由ルヲ

論ス、一節

○人間行為ノ定度、常ニ遷移止ラザル片ハ、是レガ本源タル者モ、亦隨テ遷移ナキ能ハサルヲ論ス、三節

○道德ノ綱領ハ、古今變遷ナキヲ論ズ、一節

○智慧ノ事業ハ、常ニ變遷多キヲ論ズ、一節

○智慧ハ、世道上進ノ本源ナルヲ論ズ、一節

○愚人ノ惘誠ハ、社會ノ禍害ヲ生ズルヲ論ズ、二節

○羅馬西班牙ヲ以テ前論ヲ證ス、二節

○宗教苛虐ノ減少ハ、智慧ノ上進ヨリ來ルヲ論ズ、一節

○嗜武心ノ減スルハ、智慧ノ上進ニ由ルヲ論ズ、三節

○魯西亞土爾格ヲ引用シテ、前論ヲ證ス、二節

○世道上進ニ隨ヒ、智者ノ兵役ヲ避クルヲ論ズ、一節

○希臘ノ古代ト、歐洲ノ近代ノ武人ヲ對舉シテ、前論ヲ證明ス、一節

○知識ノ上進ニ際シ、尚武心ノ減省ニ於テ三大原因ノ存スルアルヲ論ズ、一節

○三大原因ノ第一タル火藥ノ發明ヲ論ズ、四節

○三大原因ノ第二タル、經濟學士ノ諸發明ヲ論ズ、

七節

○三大原因ノ第三タル蒸氣力ノ功用ヲ論ズ、三節

○世道上進ノ原因併ニ考據ヲ論ズ、三節

伯克爾英國文明史第三編

土居光華
荳生奉三
全譯

心理ノ法則ヲ發明スル為メニ心理學ニ於テ遵用
セシ所ノ方術ヲ論ス

前編備ニ論述シ來ル所ノ例證ヲ使テ果シテ謬誤ナキ
者トセハ、萬邦史中ニ於テ既ニ至緊至要ノ柱礎タルニ
大實事ヲ定立セシ者ト云フベシ、即其ノ一ハ歐洲以外
ノ開化ハ、之ヲ歐洲内ノ開化ニ比スレバ、諸天然ノ威力、
其ノ感動ヲ與フルト最モ許多ナリトシ、其ノ二ハ是等
ノ威力、其ノ運轉動作ヲナスニ於テ大ニ禍害ヲ留殘シ

二大實事

富殖心思ノ
不平均

或ハ富殖ノ分布ニ不平均ヲ生シ、或ハ諸般事物ノ想像
ヲ煽動スル為ニ其ノ事物ニ就テ心思ノ不平均ヲ生
セシ是ナリ、今余輩カ探索シ得ル所ノ證左ヲ把ツテ之
ヲ考フレハ、歐洲現今ノ開進ト雖モ是等ノ禍害ハ多少
其ノ免カレ得サル所ニシテ、一國其ノ全ク能ク脱却シ
得シ者アラズ、然ルニ歐洲ハ他州諸國ニ較バハ、其ハ
局面甚々狹少、且氣候寒冷、地味磽薄ニシテ、天惠殊ニ少
クハシ故ニ天然事物ハ現象ヲ舉テ之ヲ論セハ、其ハ威カ
甚々微弱振ハサルヲ以テ自カテ人間構造ハ迷溺ヲ破
リ、容易ニ吾人ハ妄想ヲ拂撥ヤリ乃チ或富強ハ分賦ヲ
使テ其ハ正ヲ得難カラシムルモ、之ハ他ハ諸舊國開進

ハ景況ニ比スレハ、稍其ハ平均ヲ得ルニ近シト云フバ
キナリ、

故ニ宇内ノ史乘ヲ通覽スルニ、歐洲ニ在ツテハ、造化ノ
權カ、常ニ人類ノ為メニ制セラレ、歐洲以外ノ諸洲ハ、人
類却テ造化ノ為メニ制セラル、ニ似タリ、此ノ法制ヲ
ル蠻俗ノ諸邦ニ在ツテハ、或ハ二三ノ差錯アルモ之ヲ
開明諸邦ニ徴セハ、萬邦盡ク普通ニシテ、決シテ毫厘ノ
差アルコトナシ、故ニ先ツ歐洲内ノ開化ト歐洲外ノ開化
ト其ノ區別如何ヲ識別スルハ、所謂史學理論ノ基礎ヲ
ル者ニシテ、能ク此ノ區域ヲ識了シ、復タ印度ノ史乘ヲ
玩味了解スレハ、人類ノ天然事物ヲ變轉セシヨリハ、天

史學理論ノ
基礎

佛英ノ史乘

然事物ノ人類ヲ鑄冶セシテ其ノ最モ許多ナルヲ識リ、亦隨テ吾人ハ、首トシテ身外事物ノ考究穿鑿ヲナサ、ルヘカラサルヲ了解ス可シ、是ニ反シテ、若シ佛蘭西英吉利等ノ如キ諸邦ノ史乘ヲ講究スルハ、天然ノ威力、稍々微弱ナルヲ以テ、人事開達ノ進路ニ於テ人心ノ威力、大ニ外物ノ動作ヲ變換セシ者許多ナレハ、寧天然外物ノ考究ヲ措クモ、專ラ人事人心ノ發動ニ注目セサルヘカラス、斯ク人力大ニ進歩セシ所ノ諸邦ト雖モ未タ天然ノ狀勢其ノ威力輕少易ヤナリト謂フヘカラス、只其ノ年ヲ積ミ、日ヲ重ネ、人智亦隨テ進歩シ、皆盡ク天然事物ノ變動ヲ知得シ、亦能ク預メ之ニ當ルノ備ヲナシ、

好奇心及實際

以テ未萌ニ幾多ノ弊害ヲ防キ、以テ天然ノ威壓ヲ除キ亦大ニ之カ強慕ヲ抑制スルヲ得ルモノアリ、此等ノ例證ハ近世人間平均ノ年齒次第ニ其ノ長キヲ加ヘ、昔時避ク可カラスト為ス所ノ禍害モ、今日大ニ其ノ數ヲ減少セシヲ以テ觀ルヘキナリ、而シテ其ノ斯ノ如キ不虞ノ禍害モ之ヲ預知シ得ル者ハ、人間ノ好奇ノ心日ニ旺盛ニ趣クト、今日各自ノ交際ハ之ヲ昔日ニ比スレハ、著シク其ノ親密ヲ加ヘシトニ因ル者ナリ、故ニ平常假想ハテ偶然ハ禍害トナス所ハ者ハ大ニ其ノ數ヲ増加セシカ如クナルモ、實地ニ就テ之ヲ檢スレハ、眞實偶然ハ禍害ハ概シテ其ハ數ヲ減少セシヲ發見スヘシ、

價直ノ原因

故ニ余輩歐洲諸邦ノ史乘ヲ概見シ、而シテ之ヲ世界他邦ノ史乘ニ比較スレハ、其ノ價直ノ至大ナルヲ見、又其ノ原因如何ヲ探究スル片ハ、歐洲人ノ心目ハ皆天然諸威力ノ本源ニ洄溯シ、因テ以テ斯ノ如ク至大ノ價直ヲ得シ者ニシテ其ノ他諸般ノ原因ノ如キモ、亦此ノ一大原因ノ隸屬ト稱ス可キノニ何トナレハ、凡テ邦國開化ノ上進ハ、何レノ地方ニ關セス、其ノ間必多少ノ混雜ヲ生シ、逡巡躊躇ノ時アルヲ免カレス、故ニ開化進動ノ一大要緊ハ、此等外物現象ノ感觸ヲ抑制スルニ在リ、而シテ之ヲ減制スルノ方便ハ、天然ノ威力固ヨリ薄弱ニシテ、其ノ感觸最モ微少ノ地方ニ非サレハ、施シ得ヘカラ

開化ノ要緊

サルアリ、而シテ斯ノ如キ結構風土ヲ存スル者ハ、世界只僅ニ歐羅巴ノ一地方アルノニ是ヲ以テ歐洲ニ於テハ、獨リ人智能ハ天然ハ威カヲ馴致シ能ハ隨意ニ之ヲ屈撓シ、新ハ之ヲ使テ、其ハ本然ハ進路ヲ轉換シ、却テ人世ハ幸福ヲ補助セシメ、又能ハ人世普通ハ意思ニ隨從セシムルヲ得タリ

歐洲人士ノ所為

現今予輩歐洲ニ於テ四顧目撃スル所ノ諸物ハ、一トシテ其ノ著明盛大ナル成績ニシテ、争鬪ノ痕跡ニアラサルハナシ、實ニ歐洲人士ノ所為ヲ視ルニ、其ノ心意ノ欲スル所ハ、常ニ必ス之ヲ達シ、毫モ畏懼逡巡ノ狀ナキモノ、如シ海水暴冠ヲ退ツケ、全國之カ吞噬ヲ免ル者ア

リ和蘭則ハ是ナリ或ハ山岳ヲ攀テ坦途トナシ鐵路ヲ敷キ以テ火輪ハ運轉ヲ自在ナラシム或ハ化學ハ進歩ニ因リ碻確不毛ハ瘠土ヲ變シ殷富豊饒ハ田畝トナシ殊ニ電氣現象ハ如キハ諸物カ中最モ尊貴最モ神速最モ奇妙ナル者ニシテ尚ホ之ヲ驅テ其ハ考索ハ手段ヲ助セシム其ハ意ハ如クナラサルナシ其ハ餘人意ハ欲スル所物トシテ悉皆之ヲ能セスト云ハトナキハ今日歐洲ハ景況ニシテ即歐洲人士ハ圖企ハ達シ得タル所ナリ

又外間ノ事物其ノ勢力太ク頑強ニシテ屈撓馴致スヘカラサルカ如キ者モ歐洲ニ於テハ能ク盡ク之ヲ驅除

瘟疫

毒蟲猛獸

飢饉

セサル者ナシ彼ノ兇惡頑固ニシテ懼ル可キ瘟疫ヨリ中世ニ在ツテ最モ人ノ嫌惡セル癩病ノ如キモ舊時ハ頑固執ク可カラストセシモ今日歐洲開明ノ諸邦ニ於テハ全ク之ヲ剪滅シテ其ノ醜類ヲ遺サシメス只今日ノミナラス後來ト雖モ此等ノ惡疾其ノ威力ヲ逞スルヲ能ハザルヤ必セリ山野ノ毒蟲猛獸モ久シク其ノ跡ヲ隠シ開明人士ノ相往來スル地方ニ於テハ毫モ其ノ搏噬ヲ恣マニスルノ區域ヲ有セス又彼ノ兇暴畏ル可キ飢饉ノ如キモ往時ハ屢諸邦ヲ蹂躪セシテアリシモ今時ニ至ツテハ全ク其ノ痕跡ヲ絶テ永ク兇暴ノ患ナキヲ保スルヲ得タリ諸件斯ノ如クナルヲ以テ假令

化學ノ作用

一時ノ患害憂苦アラシムルモ、實ニ只其ノ一時僅少ノ患害ニシテ、深ク憂フルニ足ラサルナリ、之ヲ昔時ノ景況ニ比スレバ、余輩ノ福祉誠ニ天壤ノ差アリト云フベシ、現今學業ノ進歩ニ際シ、殊ニ化學ノ作用ニ藉リ、小患疾疫ハ、多クハ之ヲ未萌ニ防キ、人身ニ感染スルノ期ヲ俟タサルニ至レリ、

歐洲開明ノ進歩ニ於テハ、外物ノ威力其ノ薄弱微少ナルガ為メ之ガ感觸誘引ヲ受クル者亦太稀少ナリ、故ニ今日爰ニ其ノ數多ノ証跡ヲ列舉シ、喋々之ヲ論辨スルハ、深ク緊要トスル所ニアラス、且予ガ所謂外間事物ナル者ハ、人世ノ活路ニ於テ、毫モ關係ヲ有スルモノニ非

ス、又人間ノ作為ニ依ツテ產出セシ者ニモアラサルナリ、斯ノ如ク外物即チ天然ノ光景ナル者ハ、歐洲以外ノ開化ニ關シテ、最大無上ノ威力功用ヲ有フセシモノト雖モ、現時我歐洲開明ノ諸邦ニ在ツテハ、曾テ其ノ之ガ誘導ニ出ヅルモノヲ見ズ、例セハ、亞細亞及ヒ其ノ他ノ諸州ニ在ツテハ、商賈ノ進度、貨易往來ハ、廣狹等ハ如キ、諸件ハ、江河ハ有無及ヒ其ハ航海ハ難易、或ハ其ハ近海、港灣ハ多少良否ニ藉リ、以テ其ハ盛衰ヲトスルヲ得ク、歐羅巴ニ於テハ、決シテ然ラズ、其ハ盛衰占決ハ資材トナス可キ者ハ、斯ノ外物諸件ニアラス、以テ唯ニ其ハ人士ハ練達ト、其ハ勇敢ハ如何ニ在ルハ、余古今ヲ通

古今富強

江海

內地河流

沿海天然
灣港

人民ノ分布

覽スルニ昔時富強ヲ極メシ諸國ハ天與ノ資料最モ饒
多ナル地方ニ在リト雖モ今時富強ヲ致ス所ノ諸邦ハ
人氣最モ活潑勇敢ナル諸國ニ在リ何トナレハ現今世
界ノ景狀ヲ把テ之ヲ判スルニ天惠ノ菲薄國土用フル
ニ足ラサルキハ人智ヲ殫シテ之ガ不足ヲ補綴シ江海
航舟ヲ阻ミ地勢商旅ヲ妨クアレハ良工妙策ヲ施シテ
其ノ妨害ヲ除シ其ノ兇暴ヲ鋤キ內地河流ニ乏シケレ
ハ運河ヲ鑿テ之ヲ通シ沿岸天然ノ灣港ヲ有セサレハ
人工以テ良港ヲ築造ス尚此ハ他人民分布ノ形情ニ至
ル迄皆天然ノ威カヲ減殺シ以テ之ガ外間妨礙ヲ打破
セシ者數トセス歐洲諸邦開化優等ハ國土ニ在リテハ

都會ノ人口

生業思考

物理心理

都會ノ人口常ニ地方ノ人口ニ超過セサルナシ而シテ
大都ハ人口愈稠密ナレハ其ノ各自相互ハ生業ハ論ナ
ク隨テ思考ノ材料ヲ増加シ亦隨テ歐洲以外ハ諸邦ニ
在リテ開明進步ヲ勸住セシ許多ハ妄想迷溺ヲ掃蕩シ
外間事物ハ障礙ヲ撞破スルヤ亦明ラカナリ
以上六節ハ前篇ヲ受テ歐洲ト歐洲以外ヲ區分スル
所ノ二大要件ヲ論ス
此等諸般ノ實事ヲ以テ之ヲ推ス時ハ概シテ歐洲諸邦
ノ開明進步ハ物理ノ法則其ノ威力ヲ減スルト心理ノ
法則其ノ威力ヲ加フルノ程度如何ニ在リト云フ可シ
今此ノ概言スル所ノ明證ハ能ク史乘ニ就ヒテ之ヲ探

ラハ、其ノ得ルヲ亦容易ナル可シ、故ニ予ハ是ヨリ漸次
論述シ進ム所ノ論説ニ於テ、自ラ此ノ概言ノ證左トナ
スヘキ為メ、豫メ史中ノ概略ヲ述ベザルベカラズト
雖モ、先ツ上文陳述シ來リシ所ノ諸証左ニ加フルニ、更
ニ左ノ約言ヲ以テスベシ、此約言ヲ使テ果シテ謬語ナ
キモノトスル片ハ、此ノ概言ノ如キモ亦必然トナサ
ルヘカラス、其ノ一ニ曰ク天然ノ勢力ハ、常ニ増加スル
モノニ非ス、若シ夫ヲ使テ然ラザラシムルモ、決シテ之
ガ証左トス可キモノアルナシ、況ンヤ斯ク増加ス可キ
ノ道理ナキニ於テオヤ、其ノ二ニ曰ク人智ノ資材ハ、次
第ニ其ノ威力ヲ加ヘ、次第ニ其ノ增多ヲ致シ、遂ニ以テ

天然人智

外物排撃ノ難ヲ凌キ人智一層ヲ加フル毎ニ、自カラ天
然威力ノ制御スヘキヲ發見シ、新手段ヲ出シテ、其ノ暴
威ヲ壓制スヘシ、若シ或ハ其ノ制御ヲ誤ルトアルモ、其
ハ順環發生ノ氣運ヲ先見シ、之ニ依テ豫メ其ノ暴發遏
絶ハ工夫ヲ施シ、以テ身外事物ノ患害ヲ制伏シ得ルヤ
明ヲ加ナリ、

本論主眼

右ノ約言ヲ以テ、先論遂ニ批論ナキモノトセハ、予輩今
一步ヲ進メハ、本論ノ主眼タル一大極点ニ達スルヲ得
ルニ及ヘリト云フベシ、何トナハハ開化進歩ハ程度ハ
人心外物ヲ制御シ得ルハ程度ヲ以テ之ヲ判定シ、得可
シトスル片ハ、人世ハ上進ヲ誘道スル所ハ二大法則中、

若其優劣如何ヲ比較セハ心理ノ法則物理ノ法則ニ過
過スル者萬々明瞭ナリト云ハカルヘカテズ實ニ此ノ
講究タルヤ假令今日ニシテ其ノ然ル可キヤ否ヤノ證
跡ヲ實視スル一能ハスト雖モ他日必諸學科中ノ一門
汎ニ在ツテハ一個重大ノ科第トナルヤ知ルヘキナリ
然リト雖モ予輩カ斯ク此ノ辨論ニ進ミ來リシ所ノ基
礎本原タル者ハ何處ヨリ得來ヤト詰問スル片ハ予輩
モ亦曖昧糶糊敢テ定認ス可キノ本因ヲ明辨スル一能
ハス唯其ノ認ノ得可キ所ノ者ハ予輩ノ論辨審議ノ為
メニ自カラ本題ノ諸條理ヲ結合シテ現今始メテ簡單
ノ說明ヲ顯ハセシト云可ノミ即チ歐洲歷史ハ大法ヲ

簡單ノ說明

歐洲歷史ノ
大本

知ラント要セハ先ツ心理ノ法則ヲ發見スルニ如カス
ト言フニ外ナラサルナリ果シテ心理ハ法則ハ直チニ
之ヲ以テ歐洲歷史ノ大本基礎ヲ定立スヘキ者トナス
トキハ物理諸法則ハ其ハ下流ニ位セシメ唯ニ心理ハ
混亂攪擾者ナルニ過キサル者ト論セサルヘカテズ然
ル而シテ此ハ攪擾者ハ如キモ近古數百年ハ間ニ在ッ
テハ大ニ著シク其ハ勢カテ滅殺セシト云ハ可シ
以上二節ハ歐洲歷史ニ於テハ心理物理ノ二法則中
ニ就テ心理法ノ緊要ナルヲ論ズ
今予輩人心ノ諸法則ヲ檢出ス可キ所ノ諸方術ヲ求メ
ント欲スレバ心理學ニ據ルヲ以テ最モ便宜至當ナリ

人心ノ諸法
則

トス、而シテ夫ノ心理學者ハ、又將ニ彼等平生固有ノ考
索ヲ盡シ、完全具備シテ容易ニ難詰スヘカラサル所ノ
辭說ヲ以テ予輩ニ與ントス、故ニ予輩亦宜ク先ッ彼等
講究程度ハ如何ヲ究ム其ハ材料ハ多寡ヲ搜リ、以テ彼
等カ常ニ慣用シ、又彼等カ大ニ貴重スル所ノ方術ニ於
テ其ハ價直果シテ虚妄ナキヤ否ヤヲ精査セサルヘカ
ラス、

心理學者ノ
方術

心理學者ノ方術ハ、其ノ主說止ヲ得サルノ理由アリテ
現今兩派ニ分流スルト雖モ、其ノ本原ニ洩洩スレハ、到
底一種同根タラサルヲ得ス、而シテ其ノ徒ノ講究スル
所ヲ見ルニ、只各自心思ノ發作スル所ノ狀況ヲ以テ、直

ニ之ヲ考定スル者ニ過キス、斯ク自己一個ノ心思ヲ以
テ強テ之カ考定ヲナス所ノ方術ハ、固ヨリ社會幾多ノ
心思ヲ舉テ、比較統一以テ其ノ考定ヲ下ス所ノ史家ノ
方術トハ、正ニ相互對スルモノナリ、古來未タ心理學者
ニシテ能ク一學科ヲ發見セシモノアラズ、亦以テ其ノ
方術ノ拙ニシテ其ノ宜キヲ得サルヲ省ルベシ、現今予
輩カ目撃識認スル所ニ在テハ、天然萬物ニ就テ、悉ク其
ノ諸般ノ顯象ヲ精査シ、又其ノ顯象ノ中ニ於テ偶然變
化ノ攪擾ヲ除去シ、始メテ其ノ真正一定ノ規則ヲ發見
シ得ヘキナリ、而シテ其ノ之ヲ為スノ方術ハ、唯ニ試驗
ト實驗トノ二法ヲ以テ之ヲ定ムルニ外ナラサルヘシ、

試驗實驗

心思ノ誘惑
外物ノ羈絆

蓋シ實視ハ積ンテ以テ諸般ハ攪擾ヲ除去スルヲ得試
驗ハ以テ諸般ハ顯象ヲ精査スルヲ得レハナリ、此ハ二
法ハ事物推究ハ方術ニ於テ必其ハ一ヲモ缺ク可カラ
サルモハナリ、然ルニ心理學者ノ推究ニ在ツテハ、此等
ノ方術ニ於テ、惟其ノ一ツヲモ之ヲ用ヒサレハ、其ノ諸
顯象ヲ精査ス可キノ術ニ於テ彼等決シテ之ヲササル
ナリ、何トナレハ、人各其ノ心思一點ノ誘惑ヲ蒙ラサル
者ナク、又全ク外物ノ羈絆ヲ脱却シ得ルヲ能ハス、例セ
ハ假令其ノ目前排擊非難スル所ノ事ト雖モ、多少其ノ
心思ニ感覺ヲ與ヘサル者ナケレハナリ、又心學者流ノ
推究ニ在ツテハ、常ニ自負悔慢ヲ以テ考定ヲ下ヌノ弊

ナシトセス、其ノ故何トナレハ彼等毎ニ慣用スル所ノ
法式ナル者ハ、唯ニ彼等一己心意ノ動作ヲ量リ、之ヲ推
擴シテ、其ノ他數萬ノ心思ニ及ボシ、以テ之カ法則ヲ定
立セント欲スルニ在ルヲ以テナリ、故ニ心理學者ノ推
究法ニ於テハ、一ツハ實驗ヲ積ンテ諸般ハ攪擾ヲ除去
ス可キノ術ヲ缺キ、一ツハ悔慢ニ流レテ過失ヲ預防ス
可キノ術ヲ失ヒ、自カラ其ハ推究ハ區域ヲ縮メ攪擾紛
乱ハ中ニ墮落シ實驗試驗ハ如キモ遂ニ之ヲ施スハ術
ナキニ至ル者ナリ、

右ハ心理學者ニ向ツテ第一試ミサルヲ得サル所ノ排
擊說ニシテ、只其ノ門戸ヲ窺フ者ノト云テ可キノ若

自己ノ心思

レ予輩ヲ使テ猶ホ其ノ堂室ニ闖入スルヲ得セシメハ、亦直ニ其ノ真正確實ナル非難抗撃スヘキ論点ヲ發見スルヤ必セリ、蓋シ心理學者ハ、自己一身ノ心思ヲ以テ自カラ萬人心思ノ法則ヲ推測ス可トナシ、大ニ其ノ意ニ満足セリト雖モ、若シ此ノ方術ヲ施スニ當ツテハ、必忽チ一種異様ノ困難ヲ生セサルヲ得ス、何トナレハ、其ノ方術ノ資料太ク僅少ニシテ、且ツ挾隘ナルカ為メ、心理學者ノ論理ハ、親シク其ノ爭論ニ關係スル者ヲ除キテハ、毫モ其ノ痛痒ヲ覺ヘサルカ如シ、故ニ其ハ方術ハ成立ヲ知り、其ハ性質ヲ究メント欲スルニハ、先ツ心理學者中ニ大派ハ略説ヲ示スニ非ラザレハ、讀者恐クハ

一種異様ノ困難

自己ノ感覺
自己ノ思想

推究ノ物料
及器具

心理論者ノ歸着スル處ヲ得サルナリ、心理學ノ方術ニ從ツテ、人心ノ性質ヲ講究スルニ際シ、其ノ間自カラ二種ノ方術アルアリ、其ノ説ク所均シク皆明瞭迥廓ナリト雖モ、其ノ成績結果ニ至ツテハ、亦全ク相表裏スル者ノ如シ、其ノ一派ニ於テハ、推究家先ツ自己ノ感覺ヲ省察スルニ在リ、又他ノ一派ニ在ツテハ、先ツ自己ノ思想ヲ考察スルニ在リ、此ノ如キ二種ノ論派其ノ説ク所常ニ互ニ相反對シ、其ノ結果モ亦必ス相反對シテ二派共ニ困難ヲ極ムト雖モ、今其ノ相反對スル所以ノ理ヲ搜索スルハ、亦決シテ難事ニ非ルナリ、蓋シ心理學者ニ於テハ、其ノ推究ノ物料トスル所ノ者ト

心理學者ノ見識

物理上ノ推究ト心理上ノ考察

其ノ推究調査ノ器具トナス所ノ者皆唯一個心思ヲ棄テ、他ニ之ヲ求ムルコトヲ知ラス、斯ク其ノ方術ヲ施行スル所ノ器具ト其ノ方術ヲ受クル所ノ物料ト同品同物ナルヲ以テ、自然其ノ間ニ於テ一種異様ノ困難ヲ醸成セサルヲ得サルナリ、何トナレハ、心理學者ノ見識ハ如何ニ該博曠達ナルモ、其ノ所謂見識ナル者ハ、則其ノ心思ノ鑄造陶冶スル所ノ者ニ成リテ、固ヨリ人心ノ顯象ヲ統轄網羅シ能フ所ノ者ニ非ス、是ニ由テ之レヲ觀レハ、物理上ノ推究ト、心理上ノ考察トハ、始メヨリ其ノ基礎本源ヲ同フセサルナリ、蓋シ物理上ニ於テハ、推究追査ノ法多岐ナリト雖モ、其ノ結果成績ナル者ハ、常ニ

思想從事者 虛無ナル思想

同一物ナラサルヲナシ、心理上ニ於テハ、其ノ材能靈知齊シク同一ナルモ、心思ヲ研磨若シ其ノ法ヲ異ニスルトキハ、之カ為メ自然其ノ考定思量スル所ノ者ニ於テ、必ス其ノ差異ナカルヘカラス、人若シ是等ノ事情ニ於テ、假令的然ノ理由ニ乏シキヲアルモ、少シク其ノ商量辨明ヲ要セハ、亦容易ニ之ヲ曉了識別スルヲ得ヘキナリ、今試ニ心理論中ノ一端ヲ舉テ、之ヲ論セハ、心理學者中思想ノ考察ニ從事スル者ニ在ッテハ、必其ノ腦中ニ於テ虛無ナル思想ヲ講究スルヲ主トス、而シテ人若シ此ノ徒ニ向テ心理ノ學ハ、那處ヨリ創起スルヤヲ問フ片ハ、其ノ徒必之ニ答ヘテ曰ハントス、其ノ起源ハ決

シテ之ヲ五官ニ歸スル能ハス、五官ノ能力ハ常ニ限リ
アル者ニシテ、且其ノ喚起スル所常ニ偶然不定ナル者
ナリ、然ルニ虛無ナル思想ハ其ノ定限アルヲナク、且其
ノ思想ノ發起セントスル所ノ者モ亦常ニ必然ニ出シ
トス、何ヲ以テ定限ナシト云フ、曰ク虛無固ヨリ終局ア
ル處ヲ知ラス、何ヲ必然ニ出ルト云フ、虛無必時處トシ
テアラサルヲ能ハザレハナリ、然ルニ感覺論者ニ在ッ
テハ其ノ本旨ヲ思想ニ歸セスシテ、必五官ニ歸セント
ス、故ニ其ノ決定成果ナル所ノモノ亦自カラ差異ナキ
ヲ得ス、其ノ徒ノ説ニ曰ク人若シ始メニ本旨ノ物質ノ
思想ヲ起スヲナキキハ、所謂虛無ナル思想ヲ疑ラス

感覺論者

物質思想

能ハス、而シテ物質ノ思想ハ、先ツ其ノ物質ナルモノ其
ノ官能ニ感覺ヲ起シ、而シテ其ノ成果ヨリ生スル所ノ
者ナリ、又曰ク虛無ノ思想ハ常ニ必然ニ生スト云フモ
畢竟其ノ思想ハ、彼此ノ物料互ニ相關係シテ、位置形状
ノ必ス然ラサルヲ得サル所ヨリ來ル所ノ成果タルヲ
免カレス、是レ虛無ノ思想ト物質ノ思想ト其ノ間自カ
ラ和ス可カラサルノ黨派ヲ起ス原因ナリ、而シテ此ノ
兩派常ニ我感覺論者ノ眼界ニ在ッテ、其ノ爭鬪止マサ
ルヲ以テ、我輩モ亦終ニ虛無ヲ脱シテ、物質ヲ求ムル
能ハス、猶ホ物質ヲ離レテ虛無ヲ求ルヲ能ハサルカ如
シトナスニ及フ豈嘆慨至リナラスヤ、且彼ノ思想論者

我感覺論者
ハ心理論者
自カラ道ヲ
ナリ伯克爾
氏ノ言フニ
アラス

線條面積及容量

予ハ伯克爾氏ナリ

原因時刻物 休衆人一様

ハ。虚。無。限。界。ナ。レ。ト。ス。ル。モ、線。條。面。積。及。容。量、ノ。三。件。ヲ。益。增加シ、愈張大ニシテ、考フルキハ、必一個ノ考定ヲ生スルヲ得可シト、予按スルニ、此兩派此他尚ホ幾多ノ論點ニ於テ、斯ノ如キ衝突ヲ免レサル者多シ、例セハ、思想心理學者ニ在ツテハ、其ノ原因、時刻、物体、衆人、一様、等ノ說ニ於テハ、正確且單絶ナル者ニシテ、理論ヲ以テ之ヲ推スモ、必心思ノ本原ト認メサル可カラスト、篤々自カラ之ヲ信シ之ヲ主張スレトモ、是ニ反シテ感覺心理學者ハ、斯ノ如キ思想論說ノ純正簡一ナルヲ肯ンセス、却テ之ヲ以テ混淆錯雜ナル者ニシテ其ノ徒斯ク自己ノ論說ヲ尊崇スルハ、之ヲ信スルノ切ニシテ、之ニ押ルノ深

キニ由ルモノナリトス

必然偶然ノ真理

理學藝術修身學

善惡真偽醜美

是レ兩派其ノ考索ノ法ヲ異ニスルヨリ、自然其ノ間ニ現出スル所ノ一大著明ノ差點ナリ、思想心理學者ハ必然ノ真理ト、偶然ノ真理ハ、自カラ其ノ原因ヲ異ニセサルヲ得ストシ、感覺心理學者ハ、必偶孰レモ其ノ原因ヲ異ニセサル者トス、斯ノ如ク兩門派其ノ私論ヲ主持スルヲ以テ其ノ理ヲ究ムルト愈深ケレハ、其ノ論愈其角度ヲ差隔シ、兩派ノ爭論、常ニ理學、藝術、修身學、等ノ諸科場ニ於テ、擾々相絶ユルノ期アルヲナシ、然ルニ思想家ノ言ヲ聞クニ、人タル者其ノ善惡真偽醜美ノ分界ヲ判スルニ當リ、萬人必相同シカラサルヲ得スト、又感覺家

ノ言ニ曰ク、思想ハ感覺ニ憑ツテ起リ、而シテ人ノ感覺ハ、其ノ身体ノ如何ト其ノ受クル所ノ外物ノ如何ニ依ツテ、自然其ノ變化ヲ生スル者ナレハ、思想家ノ云フ所ノ如キ萬人一定ノ基礎アツテ、萬人一定ノ思想ヲ起ス者ニ非ズト、

著名ノ争闘

右ハ古來心理學者流ノ中ニ於テ著名ノ争闘ニシテ、讀者最モ著眼セサル可カラス、何トナレハ斯ク兩派相異ナル所ノ推究法ヲ以テ、互ニ相凌轢刺衝セシヨリ、心理學ノ資料自カラ之カ為メニ發顯スルニ及ヘル者アリ、然リ而シテ、兩黨ヲ使テ若シ試ニ其ノ頭ヲ回ラサシメバ、心理ノ法則ヲ研究スルハ、只ニ各自一個ノ心思ヲ推究

各自一個ノ心思

反想感觸

スルニ在リト云フノ一語ニ過キス、蓋シ其ノ意思ヲ推究セントスル片ハ、心思ノ中反想ト感觸トノ結果ニ憑ラサレハ、又他ニ其ノ憑據ス可キ者ナシ、故ニ兩黨今日旨トシテ主張スル所ノ者ハ、反想ノ法則ヲ以テ、感觸ノ結果ヲ斷スルト、感觸ノ法則ヲ以テ、反想ノ結果ヲ斷スルノ兩旨ニ外ナラス、凡心理學ノ方術ハ孰レモ此ノ兩派ノ一二據ラサル者ナケレハ兩黨互ク速ニ相合シ相和スヘキニ似タレトモ、若シ兩派相合スレハ、心理現象ハ忽綜括シ盡クルヲ以テ、永世恐クハ此ノ如クナラサルヲ得ス、何トナレハ、其ノ主トスル所孰レモ其ノ理アルカ如ク且其ノ主論者孰レモ拗拗動カス可カラサル

ヲ以テナリ、而シテ其ハ論說ハ性質タル、決シテ中庸不
偏ハ本點ヲ發見スル、能ハサル者ニシテ、又其ハ之ヲ
中裁勸解シ得可キ者ナカル可シ、到底心理學者ニアラ
スシテ、心理學爭論ヲ中裁ス可キ者ナク、又其ハ心理學
者タル者ハ、孰レモ或ハ思想論者カ、或ハ感覺論者カラ
サルヲ得ス、然ラハ則チ已カ中裁セントスル所ハ兩派
ハ一方ニ於テ、已レ必自カラ先ツ立サルヲ得サルナリ、
以上五節ハ、心理學中ニ於テ、其ノ法則ノ二旨アルヲ
論ス、

是ヲ以テ之ヲ察スレハ、心理學ノ爭論タル、決シテ混交
一致ス可キモノニ非スシテ、永ク兩派兩黨ニ分レ其ノ

本理發見ノ
時期

二大問題

真正ノ本理ヲ發見スヘキ時期アル者ニアラス、又其ノ
材料ト為ス所ノ者亦太々乏少ニシテ、其ノ用法ニ於ケ
ルモ、敢テ一個ノ新手段ヲ設ケ、以テ真正ノ本理ヲ發見
セント欲スルノ思念ヲ有セザルモノナレハ、今予カ見
ル所ヲ以テ之ヲ斷セハ、結局此ノ二大問題ヲ分疏シテ、
以テ人身史上ノ疑團ヲ解釋ス可キノ時ナント言ハサ
ルヲ得ス、而シテ、今日若シ詳ニ心理學上ノ現況ヲ名狀
セハ、今古諸學科中賢哲ノ思慮ヲ煩ハシ、社會ノ紛議ヲ
喚起セシ者此如キ者ナク、又未、其ノ探究最モ深密ニシ
其ノ考索亦最モ永遠且悠久、斯ノ如ク好結果ニ乏シキ
者アルヲ見ス、又諸學科中、今古未ク其ノ紛議ノ屢々シ

テ其ノ進歩ノ少ナキ者其ノ尤アルヲ見サルナリ、嗚呼、
近古數百年間、開明諸邦ハ哲學俊髦此ノ學ハ為メニ其
ハ精神ヲ費ヤシ、其ハカヲ盡サハルニ非スト、雖モ今ニ
至ツテ之ヲ觀レハ、只其ハ真理ニ接近セサルハ、
ス、人智ハ進歩ニ隨フテ却テ其ハ遠隔ハ程度ト速カ
加ハルカ如シ、又近時人間智慧ノ上進ニ際シテ其ノ兩
黨ノ爭論愈熾ニシテ、其ノ攻撃愈烈シク、其ノ持論益
固陋、益邪僻ニ陥リ、自己自ラ其ノ混亂ニ困ムハ、殆ント
神學者流ノ宗教諸派ニ在ツテ、相爭鬪スルノ狀ニ異ナ
ラス、是ノ如ク兩黨相鬪キ相寢ム時ナケレハ、其ノ中ニ
三重要眞純ノ法則ヲ除去スレハ、假令今時現行ノ諸論

純料ノ心理學

說ヲ聚合シ得ルモ、心理學ノ全体ニ於テ貴重信用ス可
キ者ハ、恐クハ發見シ得ヘカラサルヘシ、故ニ是等兩派
ノ推究法ニ於テ其ノ間必過誤失策ヲ免カルヘカラス、
余ヲ以テ之ヲ判セハ、今余輩一人一巳見ヲ以テ一人一個
ハ、心ヲ察シ、僅々ハ材料ヲ掲ケ、疎漏ハ試驗ヲ以テ一
種純料ノ心理學ヲ編出シ、堂々一學科ニ列セント欲ハ
固、為シ得ヘキハ業ニアラス、然テハ則チ心理學ハ大ニ
萬邦今古ハ史冊ヲ蒐集シ、辨論講究以テ人世ハ大勢ヲ
通曉スルヲ得ルニ至リテ、僅ニ始メテ其ノ業ヲ成就セ
ハト云ヘキカ、是ハ予カ常ニ期望スル所ナリ、
以上一節ハ、今古心理學ノ推究皆其ノ法則ヲ得サル

ヲ論ス、

英國文明史第三編終

伯克爾文明史第四編

土居光華
萱生奉三
同譯

心理上ノ法則ハ、道德智慧ノ兩種アリ、而ノ社會ノ
開進ニ就テ、其ノ感効孰カ最モ優ナルヤヲ論ス、

從來心理学
ノ方術
他ノ一法

前編既ニ論究セシ如リ、現今社會ノ智識ヲ以テ之ヲ憶
想スレハ、從來心理学ノ方術ハ、到底人心動作ノ法則ヲ
發見シ得ヘカラサルヤ明カナリ、故ニ余輩今其ノ他ノ
一法ヲ按シ、是ニ據テ心理ノ諸現象ヲ考察シ、彼ノ一人
一個ノ心思ヲ以テ、各人各個ノ心思ニ及ホスカ如クナ
ルヲナク、廣ク各人心思ノ發動ヲ綜羅シ、因テ以テ心理

一好証

產出男女ノ對數

ノ方術ヲ究メントス、斯ハ如ク一人一個ハ心思ヲ把テ之ヲ判スルト、各人各個ハ心思ヲ合セテ之ヲ斷ズルト、其ハ間互ニ相反シ相容レサル者アリト雖モ能ク真理ヲ講究セント欲セハ、各其ハ領有スル所ハ資料ヲ使テ更ニ一段其ハ詳悉ヲ加フルハ勝レルニ如カス、然ラハ余ハ尚此ハ處ニ於テ適切ナル一好証ヲ掲ケ夫ハ造化ハ大法諸攪擾ハ中ニ在ツテ隱然常ニ其ハ運動進行ハ秩序ヲ誤ラサル者ヲ明示セザル可カラズ、然ルニ其ハ考索未タ其ハ奧ヲ極メサル者ニシテ固ヨリ讀者ハ望ニ充タサルヲ知ルナリ、

今余カ好証トシテ、論述セント欲スル所ノ者ハ、產出男女ノ對數ナリ、蓋シ一國男女ノ對數若シ大ニ其ノ比例ヲ失フ時ハ、假令一世ノ間ト雖モ、社會必非常ノ混亂ヲ醸成シ、人民ノ罪犯ヲ增益セザルナシ、余今日世上ヲ通覽スルニ、男女產出ノ對數殆ント常ニ相平均スル者ノ如シ、然ルニ近代ニ至ル迄、其ノ產出果シテ平均ヲ得シ者ナルヤ、或ハ其ノ間出入多寡アリヤ、又或ハ其ノ多寡アリトハ、孰レカ其ノ多キヲ占メ、孰レカ其ノ少キニ居ルヤ、共ニ未タ能ク精査シ得ル者アルヲ見ス、嘗テ之ヲ論スル者アリ曰ク、元來產出ハ、其ノ之ヲ生スル所ノ物品アリテ、其ノ動作ヨリ來ル者ナレハ、其法則必其ノ中ニ在存セサルヲ得ズ、即チ男女多寡ノ原因ハ、其兩親ニ

平均多寡出入多少

女ノ對數ナリ、蓋シ一國男女ノ對數若シ大ニ其ノ比例ヲ失フ時ハ、假令一世ノ間ト雖モ、社會必非常ノ混亂ヲ醸成シ、人民ノ罪犯ヲ增益セザルナシ、余今日世上ヲ通覽スルニ、男女產出ノ對數殆ント常ニ相平均スル者ノ如シ、然ルニ近代ニ至ル迄、其ノ產出果シテ平均ヲ得シ者ナルヤ、或ハ其ノ間出入多寡アリヤ、又或ハ其ノ多寡アリトハ、孰レカ其ノ多キヲ占メ、孰レカ其ノ少キニ居ルヤ、共ニ未タ能ク精査シ得ル者アルヲ見ス、嘗テ之ヲ論スル者アリ曰ク、元來產出ハ、其ノ之ヲ生スル所ノ物品アリテ、其ノ動作ヨリ來ル者ナレハ、其法則必其ノ中ニ在存セサルヲ得ズ、即チ男女多寡ノ原因ハ、其兩親ニ

心理生理、
二學者

在ラザルヲ得ズト、又曰ク生理學ハ、人體ノ法則ヲ究ムル者、而テ產出ハ、又人體動作ノ爲ス所ナレハ、若シ能ク人體ノ法則ヲ究ムル時ハ、隨テ能ク產出ノ法則ヲ究メ得ベシト、是レ往時生理學者ハ男女產出ハ理ヲ究メントセシ所ハ方術ニシテ、今日吾本編ニ於テ心理學者ト稱呼スル者ハ人心變化ハ法ヲ究ムハトスル所ハ手段ト更ニ相異ナルトナシ心理生理ノ二學者、常ニ其ノ意以為ラク、凡ソ天地間ノ諸顯象ハ、皆盡ク其ノ原因法則ヲ究ムルヲ得ヘク、而メ其ノ法則ヲ究メ得ルトキハ、亦自カラ其ノ顯象ヲ豫知スルヲ得ヘシト、生理學者曰ク各人能ク其ノ一身一個ノ所為如何ヲ驗シ、能ク其ノ交

合關係ノ法則ヲ識得スルトキハ、亦以テ男女產出ノ定率ヲ知ルヘシ、何トナレハ、男女產出ノ比例ハ、唯ニ交合ヨリ生スル所ノ結果ナルヲ以テナリト、心理學者亦同シク謂アリ曰ク、各人其ノ一身一個ノ心思ヲ驗シテ、其ノ動作如何ヲ察盡スルトキハ、亦以テ各人各個ノ心思ノ動作ヲ豫知スヘシ、何トナレハ、各人各個ノ心思ハ、唯ニ一人一個ノ心思ノ集合セシ者ニ外ナラサルナリト、斯ハ如キハ、生理學者ハ男女產出ハ原因ヲ説キ心理學者ハ人事歴史ハ法則ヲ講セシ所ハ本音ナリ、然ルニ今試ニ此兩學者ニ向テ其ハ極論極意ハ在ル所ヲ問ハハ心理學者ハ恐クハ、一モ其ハ實事ヲ舉テ答辨ヲナス能ハカ

ルハハ生理學者亦然ヲサルヲ得ズ唯幸ニ生理學者ハ
側ラ解剖術ハ幫助ヲ得テ試驗實驗ハ功用ニ藉リ稍心
理學者ハ及ハサル所ヲ補フト雖モ前條ハ難問ヲ解説
スルハ點ニ於テハ未タ其ハ微功ヲ奏スルヲ見ス而ハ
從來男女ハ産出ハ其對數常ニ相均シキヤ其ハ間或ハ
出入多寡アリヤ又或ハ孰レカ其ハ多キヲ占メ孰レカ
其ハ少キニ居ルヤハ問題ハ依然トシテ今日目前ニ存
在セリ

此等ノ問題ニ就テハ有名ナルアリストールノ古昔
ヨリ今時ニ至迄幾多ノ生理學者アツテ穿鑿考究ヲ極
ムト雖モ未タ曾テ一人是レカ正當ノ答辨ヲナス者ナ

産出男女ノ
表紀

二十女子每
二十一男子
子

シ夫ハ斯ハ如ク困難ノ事項ニシテ數百年間賢哲學士
ハ為シ得ザル者余輩今日始メテ的當ハ方術ヲ發明シ
正當ハ答辭ヲ考究シ得タルハ豈愉快ハ至リナラスヤ
即チ萬邦産出男女ノ表紀ニシテ其事太明晰且其表紀
ハ一年半歳ノ記録ニ非スシテ其間幾多ノ違亂ヲ除去
シ累年間ノ事ヲ蒐集セシ者ナレハ其確實ナルモ亦尊
信憑據スヘキナリ總テ萬邦男女産出ハ比例二十女子
毎ニ二十一男子ニシテ永世終始圓數タルヲ明カナリ
而シテ此定則固ヨリ些少ハ出入變化ナキニ非ズト雖
モ其大體不變ハ定則タルハ古來萬邦記録曾テ女子ハ
産出男子ハ生出ニ超過セサルヲ以テ知ル可キナリ

産出ノ本源

是ノ如ク正確至美ナル定則ト雖モ、其發明推究猶ホ未
 タ産出ノ本源即チ物體上ノ現象ニ及ホシ能ハサルヲ
 以テ不完不備ノ者タルヲ免レヌ、是レ學者ノ遺憾トナ
 ス所ナリ、然ルニ其發明ノ完不完ハ、今問フヘキ所ニア
 ラス、茲ニハ、唯余ノ本旨タル後來發明方術ヲ論スヘキ
 ノミ、從來生理學者ノ方術ハ、心理學者ノ説ト同一無實ノ
 者タリト雖モ、今此方術ノ如キハ、現ニ編者ノ本旨ニシテ
 人心動作ノ推究法ト云フベシ、往時生理學者ノ一身一
 個ノ試験ヲ以テ、男女對數ノ法則ヲ發見セント欲セシ
 時間ハ、實ニ其目途ニ一歩ヲ進メシ者アルヲ見ス、然ル
 ニ世人往々彼ノ如キ一身一個ノ試験ハ、以テ一定ノ法

人心動作ノ推究法

試験ト道理

則ヲ立ツルニ足ラス、細大萬事ノ實視ハ、其ノ法則ヲ索
 ムルノ具タルヲ悟ルニ至ラテ、始テ古來賢哲學士ノ發
 見シ得サル所ノ新方術ヲ其眼中ニ現出シ、造化大法ノ
 何物タルヲ知り得タルナリ、然ラハ心理學者ノ如ク永
 ク其ノ狹少淺陋ノ方術ヲ以テ、人心ノ法則ヲ考索セシ
 ト欲スル時間ハ、予輩決シテ其ノ為シ能フノ期ナキヲ
 保ス、故ニ予輩今日人心動作ノ真法ヲ發見セシト欲セ
 ハ、宜ク先ツ其舊例古法ヲ拋擲シ、其ハ試験ト道理トニ
 於テ虧缺遂ニ實施ス可カラサル者ヲ廢棄シ、新ニ實事
 考索ノ方術ヲ設ケ、漸次詳細ハ試験ヲ以テ、幾多ハ擾亂
 ヲ除却シ、始メテ真正ノ實物ヲ發見セシトテ務メザル

ハカラス、

右一場ノ間談論ハ、余カ本編本旨ノ暢達ヲ要スル為ニ
引用陳述スル所ノ者ナリ、此談固ヨリ此本論ニ於テ巨
大ノ勢力ヲ與ヘスト雖モ、亦必ズ幾許ノ詳悉ヲ加フベ
シ、且容易ニ讀者ヲ使テ予カ平生遵用スル所ノ方術ヲ
知ラシムルノ便アラントス、乞フ幸ニ之ヲ諒スヘシ、而
シテ今余輩カ更ニ論究メント欲スル所ノ者ハ、即前ニ
探討發明セン方術ヲ移シテ、直ニ之ヲ心思開進ノ本源
法則ヲ究索スルニ在ルナリ。

心思開進ノ
本源

以上五節ハ、心理ノ法則ヲ究ムルハ、心理學上ノ方
術ヲ以テスルヨリハ、史學上ノ方術ヲ以テスルニ

道德智慧ノ
開進

如カザルヲ論ス、

今其ノ心思開進ハ、何ヨリ起ルヤヲ探討スルニ、其途兩
岐アリ、曰ク道德上ノ開進、曰ク智慧上ノ開進、是ナリ、道
德上ノ開進ハ、專ラ人間ノ本分ニ關シ、智慧上ノ開進ハ、
專ラ吾人ノ材識ニ關ス、斯クノ如ク心思ノ開進ヲ大別
スルハ、則古來普通ノ例ニシテ、史乘中古今ノ沿革ニ藉
ツテ、之ヲ考フルモ、亦直ニ此ノ分別ノ妥當至確ナルヲ
覺了スヘシ、智慧愈發達スルモ、罪惡隨テハ增長シ、道德
益堅固ナルモ、漸々愚昧ニ陥ルキハ、之ヲ真正ノ開進ト
稱スルニ足ラズ、世道ハ上進ヲ論シ、心思ノ開進ヲ探ラ
ハト欲セハ、必ズ先以テ二者即チ道德ノ開進ト、智慧ノ開

進トヲ究ムサルヲ得ズ吾人ハ本分ヲ盡サント欲スル者ハ道德ニ屬シ如何シテ之ヲ盡シ得ラル可キヤト思念夾行スル者ハ智慧ニ屬ス此二者最モ周密最モ相合スレバ其運行スル所ハ調和亦最モ大ニシテ其方法乃チ其目的ニ結合シ大ニ人世ハ志業ヲ遂ゲ世道隆進ハ基礎更ニ大ニ定立スルヲ得可キナリ

以上一節社會ノ開進ハ道德上下智德上ノ二途アルヲ論ズ

然ラハ則チ道德ノ改良ト智慧ノ開達ハ孰レモ皆意思進歩ノ元質ニシテ其缺ク可カラサルトハ同等ナリト雖モ此二者ノ中其ノ孰レカ最モ緊要ナルヤハ亦之ヲ

道德ノ改良
ト智慧ノ開達

論究セザルベカラズ夫レ意思ハ進歩ハ此ハ二者相結合シテ共ニ其動カヲ逞ハスルヨリシテ生ズル所ハ成果カレバ先ツ此ハ二者ハ優劣ヲ判定シ其劣レハ者ヲ使テ其優レハ者ニ亞ガシムヘシ文明ハ上進ト世ハ福祉ハ道德ニ屬スルト智慧ニ屬スルヨリモ大ナルモ若道德ハ汚隆ヲ以テ世道ハ開進ヲ測ラザルベカラズ若ハ智慧ニ屬スルト道德ニ屬スルヨリモ優ルモハ智識ハ廣狹ヲ以テ又世道ハ開進ヲ量ラサル可カラズ故ニ此二者ヲ比較シテ一旦其勢カハ強弱ヲ判知スルハ其ハ強大ハカヲ有スル者ヲ以テ世道開進ハ本源ト見做シ是ヲ以テ論理ハ標準トナサハルベカラズ而シテ其

劣必微弱ナル者、如キハ、又是レカ攪擾者ト見做サハ
ルハカラス、是レ則チ論理ハ通則ナリ

強弱優劣ノ
判定

世間ノ言語

以上一節ハ道德智慧ノ元質ヲ論ズ
今此ノ二者ノ強弱優劣ヲ比較判定スルニ臨ミ、予輩ハ
先ツ一大困難ニ遭遇セリ、蓋此ノ種ノ論題ハ極メテ精
密極メテ適切ノ語言ヲ要スル者ナリト雖モ、通常世間
ノ言語ハ、甚ク粗漏ニシテ、且ツ放肆ナルヲ以テ、意味透
徹セサルノ弊多シ、抑モ道德ノ改良ト智慧上進ト稱ス
ル語ハ、大ニ誤解シ易キ意味ヲ有スル者ニシテ、今世一
般ニ用フル所ニ於テハ、道德及智慧ノ稟賦ハ、世ノ文明
ノ進△ニ隨ヒ、自然其銳敏ヲ増シ、大ニ其靈妙ヲ加フト

腦蓋ノ容量

性情品質體
格ノ模様

道德智慧ノ
改良

云フノ意ヲ有セリト、云フニ似タリ、然ルニ此事假ニ此
ノ如キヲアラシムルモ、未ク曾テ其證跡ノ確タル者ヲ
見ズ、但遙遠ノ世代ヲ比較スレハ、其腦蓋ノ容量漸ク其
ノ大ヲ増加シ、腦力即チ精神ナル者ハ、亦自カラ其ノ靈
動ヲ逞スル者ナレハ、其嗜好見識ノ如キモ、或ハ教育ニ
由ラズシテ、自カラ上進セサルヲナシト云フ可カラズ
ト雖モ、是レ予輩未ク其ノ法則ヲ確認セサル者ニシテ、
遂ニ信用スルヲ能ハサルナリ、且又性情品質及其他體
格ノ模様、各其ノ父祖ノ遺風ヲ世襲スル如キモ、予輩全
ク未ク窺ヒ得サル所ニシテ、不確ノ言トナサ、ルハカ
ラス、故ニ予輩今日ハ智識ヲ以テ之ヲ論スハ、道德智

大野ノ兩兒

慧ノ稟賦ニ於テ古來終ニ分明ノ改良ヲ為セシ者アリ
 ト云フ能ハス又歐洲最モ文明ハ地方ニ生ハタル稚兒
 ハ其ハ性能果シテ野蠻國中、最モ不開ナル地方ニ生ハ
 タル者ニ優越セル者アリト云フハ確証アラサルナリ
 以上一節天稟ノ性能ニ上進ノ例証ナキヲ論ス
 故ニ道德智慧ハ生レナガラニシテ毫モ上進スル者ニ
 アラズ其ハ上進ハ生後其ハ性能外間事物ハ感觸ニ在
 リト知ルハシ然ラハ文明開進ノ本原ハ全ク此處ニ存
 シテ此二者ハ上進ハ内部ハ力量ヨリ起ルニアラスシ
 テ外部ハ感觸ヨリ來ル者ナリ果シテ然ラバ文明ハ國
 ニ生ハタル稚兒ハ野蠻國ニ生ハタル稚兒ニ勝ルル者

道德智慧ノ上進ハ外間事物ニ在リ

時論學識交際及身外事
物ノ刺衝

國民道德智
慧ノ度

ニアラズ其ハ長ズルニ及ンテ其兩兒優劣ハ相異ナル
 所以ハ則時論學識交際等ノ如キ身外事情ノ刺衝如何
 ニ在ルナリ尚一言ニシテ之ヲ斷ズレバ各其生育スル
 所ハ地ニ於テ呼吸スル智識ハ空氣相異ナルニ由ルナ
 リ

以上一節道德智慧ノ上進ハ唯其ノ生地ノ事情ニ
 由ルヲ論ズ

凡ソ國民道德智慧ノ度ハ當時其ノ國ニ行ハル、道德
 智慧ノ世論ニ由テ鎔成セラル、モノニシテ或ハ速ク
 時論ノ上ニ超越シ或ハ時論ノ下ニ沈淪スル者アリト
 雖凡、是レ甚タ偶然ノ事ニシテ人民ノ総體ニ於テハ極

道德智慧ノ

僅少ノト云フヘキナリ。世人多クハ中等ノ地位ヲ占
 ヲ、至愚ハ者ナケレバ、至智ハ者ハ久、又極善ハ者ナケレ
 バ、極惡ハ者ナク、尋常平等ノ点升降シ、時論世説ニ雷同
 シ、曾テ事物ニ疑心ヲ起シ、其ハ理ヲ探討スルト久、又
 世人ハ誹毀ヲ來シ一世ヲ驚醒スルガ如キハ異論奇行
 ヲナストナク、社會ハ水準ニ其身ヲ保テ、安穩無事ハ光
 陰ヲ樂ミ、一世一國ニ普通スル所ハ道德智慧ハ定度ニ
 循テ、漫然推移シ、滔々流下、自カラ人間ハ何物タルヲ知
 ラズ、其ハ一生ヲ畢ル者ナリ、
 然ルニ今史乘ニ就キテ是ヲ觀ルニ、道德及ヒ智慧ノ定
 度ハ常ニ變化シ、止ムトナキモノニシテ、縱令其形情

似タリト雖、其國異ナレハ道德智慧ノ定度亦隨テ同
 シカラズ、又一國ト雖、一代ヲ換レハ、道德智慧又其度
 ヲ同ウセズ、蓋一國ハ時論世説ハ、歳ヲ積ミ、世ヲ經ルニ
 隨テ千變萬化シテ止マザル者ナリ、故ニ一世ニ在テハ
 妖術邪教トシテ排撃ヲ受タルモ、ハモ、後世ニ在テハ
 真理確説ト尊信セララルニ至ル而ハ此尊信セララルハ
 所ハ説亦新奇ハ説世ニ出ツルニ値テ亦虛誕妄説ト
 シテ擯斥セララルニ至ルモ、ハ比々皆是ナリ、斯ハ如ク
 道德ト智慧ハ定度ハ時論世説ト共ニ相變遷シテ止マ
 ザル者ナレバ、亦時論世説ナル者ハ、其ハ是非善惡ニ論
 ナク、其本源ハ必ズ當時一國人民ハ道德及ヒ智慧上ハ

行為ニ存セザルヲ得ズ、

人間行為ノ
根本者

然ラバ、則チ今日此處ニ於テ予輩將ニ平生進行セント
スル所ノ一大基礎ヲ定立シタル者ニシテ人間行為ノ
根本ハ斷シテ變遷止マサル者トナサシムルヘカラス、故
ニ予輩是ヨリ此ノ試法ニ照ラシ、凡人間行為ノ本源タ
ル所ノ諸般ノ時論世説ヲ斷了セントス、而ノ若シ時論
世説ノ中、永ク變遷轉移ノ跡ヲ現ハサルモノアルキハ、
乃チ其時論世説ハ、予輩ノ將ニ搜索スヘキ、世道上進ノ
本源タル者ニアラズト為サントス、

以上三節、人間行為ノ定度、常ニ遷移止ラサル片ハ、
是レカ本源タル者モ、亦隨テ遷移ナキ能ハサルヲ

論ス、

倫教ノ大節
目

今此ノ試法ヲ以テ、道德ノ大綱領ニ就テ能ク是カ考察
ヲ下ストキハ、道德勢力ノ文明開化ニ及ボス者、其ノ怠
惰薄弱ナルヲ一目ニシテ瞭然タリ、凡ソ人間ノ事理ニ
於テ、古來變化ノ少ナキヲ、倫教中ノ大節目ノ如キヨリ
甚シキハ、蓋シ倫教ノ要領ハ、千古ヲ經ルト雖、聊
カ變化スル所ナシ、例ヘバ、他人ニ善ヲ行フベシ、己ノ願
望ヲ枉ゲテ人ヲ益スベシ、人ヲ愛スル己ハ、愛スル如
ク、スベシ、汝ハ、讐敵ヲ寬恕スベシ、情慾ヲ壓著スベシ、父
母ヲ敬愛スベシ、長者ヲ尊敬スベシト、道德ハ、昔趣ハ、大
抵此ニ盡セリ、而シテ是等ハ、數千年来、人ハ既ニ能ク知ル

所ニシテ、道德家、神學家ハ著述シ得シ所ハ、說法、及教書
中、曾テ一新説ヲ加フルトアルヲ見ス

以上一節道德ノ綱領ハ、古今變遷ナキヲ論ズ、
然ルニ今智慧發達ノ形狀ヲ把テ之レヲ道德躊躇ノ情
態ニ比スレハ、亦大ニ驚愕スルニ堪タル者アリ、古昔ヨ
リ一世ヲ感動レタル道德ノ教ハ、古今上下相同シク、更
ニ變化スル所ナシト雖モ、智慧ハ大ニ變遷スル所アリ、
凡テ道德ノ事ハ、古人ノ知ラサル所ニレテ、今世文明人
士ニレテ、始メテ其知リ得タルノ一事ナケレトモ、智慧
ノ事ニ至リテハ、今人ハ遙ニ古人ニ超過シ、古人ノ研究
セシヲ圖企セシ所ノ諸般學科ノ欠漏ヲ補ヒ、往古ノ

今世文明人
士

推究論理

考索法ヲ覆シテ、之ヲ革新シ、又昔時アリストールノ
ミ髣髴トシテ、僅ニ其ノ覺知シ得タル所ノ推究論理術
ノ諸資料ヲ聚メテ、一々之ヲ一術ニ構成シ、又古代ノ賢
哲學士ノ夢想シ得ザル所ノ新學術ヲ發明創造スルモ
ノ亦頗ル夥シ、

以上一節智慧ノ事業ハ、常ニ變遷多キヲ論ズ、

是レ實地ニ於テ、今世人士ノ皆領知スル所ニシテ、此等
ノ諸證例ヨリ導引セシ所ノ決定ハ亦自カラ分明ナリ
抑文明開化ハ、道德智慧ノ感效ニ外ナラス、而メ其ノ感
效ハ絶エス變遷止マサル者ナレバ、道德ノ如キ變遷セ
ザル者ハ、變遷ス可キノ文明ヲ支配スルヲ能ハザルヤ

文明開化ハ
道德智慧ノ
感效

世道開進ノ
真源併其二
條

明カナリ、夫レ變遷スル者ハ變遷ノ結果ヲ生シ、變遷ヤ
ザル者ハ又變遷セサルハ結果ヲ生スルハ、是レ通常ハ
理ニシテ更ニ怪シムニ足ラサルナリ故ニ、智慧若シ依
然トシテ世態ヲ變遷スルナクハ、道德ハ必單行シ
テ文明ヲ進ムル下能ハザルヤ必セリ然ハ則チ世道開
進ノ真源ナル者ハ道德ニアラズシテ獨リ智慧ニアル
ト云ハサルヘカラス而シテ智慧ヲ以テ世道開進ハ真
源ナリト云フニハ亦二條ハ理アルナリ、一ハ前ニ論陳
スル如ク文明ハ真源ハ道德ト智慧トニ在リテ、道德ニ
アラザレバ必ス智慧ニ在ルナリ、二ハ智慧ハ銳利ニシ
テ便宜ニ應ズルハ性アリ、後段論スル如ク、近來數百年

智慧ニ由テ
成レ得タル
事

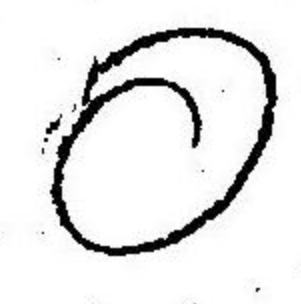
道德ニ依テ
作レタル
事

間遷ニ歐洲非常ハ開進ヲ致セル者ナリ

以上一節智慧ハ世道上進ノ本源ナルヲ論ズ

右ハ予ガ立論ノ大基本ナリ、然レドモ又別ニ此論ノ補
助トナス可キ者數頂アリ、請フ遂ニ之ヲ論ゼン、智慧ハ
其ノ進歩實ニ道德ニ優越スルノミナラズ、其成果ニ至
ツテモ亦迥ニ耐久ナル者ナリ、智慧ニ由ツテ成シ得タ
ル實事ハ文明各國凡テ周密ノ表式ヲ設ケテ之ヲ書ニ
筆シ、又學術専用ノ稱ヲ作ツテ、其絶亡ニ備ヘ、其ノ鄭重
至ラサルナレ、故ニ世々相傳ヘ易ク、又習ヒ易ク、永ク發
明人不朽ノ賜トシテ、人間社會ノ遺物トナルナリ、然ル
ニ道德ニ依ツテ作ラレタル所ノ事實ハ、吉祥善事ニ論

ナク、世ヲ経ル一太夕短カク、且人ニ被及スル一モ亦甚
ク狹少ナリ、且道德家ノ由リテ以テ基本ト為ス所ハ、多
クハ自己ノ練磨ト、工夫ニ由リテ建立シ得ル者ナレバ、
人々自カラ其事ヲ興シ、人毎トニ創造セザル可カラズ、
先人ノ實驗ニ由ツテ利益ヲ得ル一必ナク、又之ヲ貯蓄
シテ、後人ノ用ニ賜ス一能ハス、故ニ道德ハ、感效ヲ以テ
智慧ハ、功績ニ比スレハ、道德ハ一層愛ス可ク、且人ヲ懷
ハル一層優越ナリト雖モ、其結局成績ヲ見ルハ、其
功却テ銳利ナラズ、其命運カニ永久ナラズ、亦隨テ實益
多カラズ、乃チ道德上ニ於テ至仁ハ、功業又ハ至大至公
ハ、恩惠ト稱スル者ヲ觀ルニ、之ヲ智慧ニ比較スレハ、其



通常世人ノ
厭忌及原因

ハ、感效廣ク世界ニ布及セズ、又其恩惠ヲ蒙ル者必ナ
ク、間或ハ、其事業稍ヤ四方ニ傳播シ、數歳遺蹟ヲ存セザ
ルニ非スト、雖モ、直ニ其間ニ混亂ヲ生ジ、忽チ衰落ニ歸
シ、終ニ敗滅失亡ヲ免レズ、又時アリ、テ一二敗滅セザル
者アルモ、必ス當初ハ體裁ヲ變換シ、却ツテ自ラ其前體
ヲ戲笑スルカ如キニ至ルモハ多シ
是等ノ言論ハ、通常世人厭忌スル所ニシテ、必之ヲ聽ク
ヲ喜ハサルベシ、亦直ニ之ヲ肯ズル一能ハサルヘシ、而
メ今其ノ厭忌ノ起ル原因ヲ問ヘハ、世人固ヨリ此理ヲ
解シ能ハザルニアラス、只其ノ斷シテ之ヲ排却シ能ハ
サルニ在リ、蓋シ道德ト智慧トヲ比較スル一愈深密ナ

世間ノ愚人

レハ、愈智慧ノ成績結果ノ道德ニ超越スル處ヲ發見ス
 可シ、余熟世間愚人ノ所業ヲ視ルニ、其意思善良且善事
 ヲ施行スルノ權勢ヲ有スル者ト雖、其ノ施ス所ニ就
 テ之ヲ察スル所ハ、其ノ善事ニ出ツルヨリ、寧惡事ニ出
 ル者多シ、而シテ其意思愈親切ニシテ又其ノ權勢愈威
 ナレバ、其施ス所ノ禍害亦益大ナリ、然ルニ若シ其ハ
 使テ少シハ其親切ヲ薄ハシ聊其意ヲ携貳スル所ハ
 シマハ、亦隨ツテ其ハ禍害ヲ減省スルヲ得ベシ又善良
 ナル無智者ニ混和スルニ、一種ノ私智ヲ以テセシメ
 カ、則チ其無智ヲ導引シテ、之ニ疑懼ノ心ヲ生ゼシメ、因
 リテ以テ其ノ禍害ヲ減省スヘシ、然ルニ今此ノ無智者

一種ノ私智

ヲ使テ純然善良ニシテ一点疑懼ノ心ナク、其ノ志常ニ
 公益ニ在ツテ、私慾ヲ懷カス、熱心以テ大ニ其目的ヲ達
 セント欲スルノ時アルニ至ラシメバ、其ノ害亦之ヲ防
 禦ス可キノ術ナカルベシ、是レ矇昧無智ノ時代ニ在ッ
 テ、其ノ人民善良無智ノ禍害ヲ蒙ムル所以ナリ、即チ往
 古宗教ハ信徒、其ハ異教ハ徒ヲ窘逐セシ如キハ、是ハ其
 ハ明證ナリ、夫レ他人ノ己ト其ノ信向ヲ異ニスル為メ
 ニ、一個一人ヲ虐スルモ猶ホ深重ノ罪惡タルヲ免レズ、
 況ンヤ衆多ノ人ヲ驅リ、或ハ一派ノ教徒ヲ擧ゲテ、盡ク
 之ヲ罰シ、他教ヲ剿絶セント欲スルカ如キオヤ、是レ寔
 ニ殘酷ノ極ノミナラズ、又無上ノ失計ト云フ可キナリ、

意思豐富ノ
兆候

且異教異説ハ彬々社會ニ現出スルハ即意思豐富ノ兆候ニ、當時社會ハ盛事ト云フベシ、何如シ之ヲ判絶シ之ヲ殄滅スルヲ用ヒンヤ、然リ而シテ余古來此等苛虐信徒ノ人ト為リヲ察ルニ、其ノ人大抵性質善良品行正直ノ者ニアラザルハナシ、蓋其ノ人其意ニ以為ラク、人類タル者、來世ノ福音ヲ受ケント欲セハ、宜ク己カ信ズル所ヲ以テ、世上ニ傳播セシメサルヘカラス、塵世ノ禍福固ヨリ顧ミル所ニアラス、況ンヤ其身ノ利害ヲヤト、斯ハ如キハ其ハ人決シテ惡虐ナルニアラズ、唯ニ無智ニシテ信向ハ真理ヲ辨識セズ、且其自家所行ハ成異如何ナルヤヲ察知スルヲ能ハサルニ因ルナリ、然レハ道德

一片ノ親切
ト熱心

上ヨリ之ヲ觀レハ其志意毫モ譴責スル所ナシ、是レ其ハ氣焰ヲ煽動シ異教ヲ窘逐スル所ハ本源ハ只其ハ一片ノ親切ト熱心ニ在ルナリ、而シテ恐怖不可キハ勢カテ極ハハシ者ハ一個ハ信神ニ在ルナリ、茲ニ人アリ、試ミニ之ニ訓ルニ、倫理或ハ法教ノ一説ヲ以テ、先ツ其ノ妙理靈教タルヲ銘心セシメ、又之ヲ戒ムルニ能ク之ヲ守ラサレハ、神罰追ルヘカラザルヲ以テシ、而シテ後之ニ權柄ヲ授ケ、且其ノ無智ナルニ乘シテ、其ノ後害ヲ知ラサラシメハ、其ノ人必其己ニ背ク者ヲ窘苦シ、其ノ己ニ異ナル者ヲ苛虐スルヤ期スヘキナリ、而シテ其ノ苛虐窘逐ニ依リテ生ズル所ハ禍害ハ度ハ其ハ惻誠熱

異國教國及
基督教國ノ

心ハ度ニ隨ヒ昇降悃誠ハ熱心愈強大ナレハ窘逐ハ禍害モ亦愈強大トナリ悃誠ハ熱心微弱ナレハ苛虐ハ禍害亦自カテ微弱ナルヘシ若シ斯ハ如キ時場ニ當リテ試ニ其ハ道德ヲ使テ微弱ナラシム其悃誠ヲ使テ薄少ナラシムハ亦其ハ禍害ヲ抑止スヘク亦苛虐ヲ加ヘザルヘキナリ是レ今古ノ實事其例史乘ニ昭々ナリ若シ史乘ニシテ此等ノ禍害紛擾ヲ厭忌シ明ラカニ之ヲ筆シ之ヲ傳ヘサレハ其ノ史歴史ノ體裁ヲ失シ當時ノ現情ヲ悟ラシムルニ由ナカルヘシ而シテ予ハ下文ニ於テ更ニ二國ハ歴史ヲ引証シ以テ予ガ解説ハ具ト為サントス則チ其ハ一ハ異教國其ハ二ハ基督教國ノ歴

歴史

基督教羅馬
諸帝

史ニシテ各其ノ宗教熱心ハ禍害ヲ証スルニ足ル者ナリ
以上二節愚人ノ悃誠ハ社會ノ禍害ヲ生ズルヲ論ズ
基督教傳播ノ初羅馬諸帝ノ之ヲ苛虐シ之ヲ窘逐シ其ノ慘毒ヲ極ハメシハ史上ニ於テ歴然タリ然ルニ獨リ異シムヘキハ斯ル苛虐暴行ヲ逞フセシ所ノ君主ハ多ク名君賢主タル者ニ在リテ其ノ基督教徒ヲ愛シ其ノ傳播ヲ喜ヒ教徒ニ對シテ苛虐ナラサル所ノ君主ハ皆其ノ邦國人民ニ對シテ壓制專横ノ暗主タル者多シ羅馬歷世ノ中最モ殘虐不徳ノ君主タル者ハコンモギニスエラガバリスノ二君ニシテ此ノ二君ハ決シテ基督

傳後

教徒ヲ待スルニ、苛虐ノ事ヲ以テスルヲナク、又曾テ教徒ニ對シテ、阻隔禁遏ノ意アルヲ見ズ、何トナレハ、二帝ハ暗愚ニシテ固ヨリ後來ヲ顧慮スルヲナク、又其ノ性偏私ニシテ唯目前ノ淫樂ニ耽リ、我國內ニ入ル所ノ教說正邪モ之ヲ問フノ遑暇アルヲナク、國家ヲ度外ニ措キ、其痛痒ニ關セサルヲ以テ、身異教ノ君主ニシテ、曾テ他宗ノ教徒ヲ嫌忌サ、ルノミナラス、欣然却テ之ヲ樂ムニ至ルナリ、是ニ由リテ之ヲ觀レハ、基督教徒ハ深仇ハ斯ル暗愚ハ主ニアラズシテ、質性剛直志慮純良ハマルキス、オレレリスニ在リト云ハサルヲ得ズ、而シテ此ハ君斯ク其教徒ニ苛虐ナルハ、只其ハ祖先傳來ハ國教ヲ

西班牙

奉スルニ由ルナリ、若シ此ノ君ヲ使テ少シク其ハ忠良ハ心ヲ輕クシ、國教保護ニ薄情ナラシメハ、其酷虐亦斯ハ如キハ甚クシキニ至ラハルヤ知ルベキナリ、猶其証左ヲ舉ゲント要セハ、シトサル諸帝ノ中、シリアン帝ノ如キハ、其邦國人民ニ對シテハ、忠良比類ノ帝王ニシテ、其主論ノ如キハ、聊カ世人ノ批評ヲ免ガレズト雖、其ノ德行ニ於テハ、毫モ間然ス可キノ點ナキ者ナリ、然ルニ基督教徒ニ對シテハ、無上ノ大敵ニシテ、之カ為メ其ノ徒、非常ノ苛虐慘毒ヲ受ケシ、寔ニ記載ニ勝ヘサルナリ、

又眼ヲ轉シテ、西班牙ノ形情ヲ見ルニ、宗教ヲ以テ、人事

ヲ箝制スルノ甚シキハ、他更ニ之ニ比類スベキ者アルナシ、凡テ歐洲諸國中、此ノ國ノ如ク立志篤實、意向公平ナル傳教師ヲ出スモノ多キヲ見入、又此ノ國ノ如ク能ク情慾ニ克テ、正道ヲ修メ、熱心其身ヲ顧リミザルノ徒ニ富タルヲ見入、實ニ此國ノ宗徒ハ、往々其人世重要ノ具ト自信スル所ノ宗旨ヲ傳播セン為メ、萬難辛苦ヲ冒シ、身命ヲ視ルナシ、恰モ塵埃ノ如キモノアリ、又教徒ノ權勢ヲ握ルナシ、是ノ如ク久シク、人民ノ宗教ヲ信スルナシ、是ノ如ク篤ク、寺觀雜選僧侶衆多是ノ如キノ國ヲ見ザルナリ、而シテ西班牙人ノ其慈愛ノ深キ、惻誠ノ篤キハ、未タ曾テ宗教ノ苛虐ヲ防遏スルニ足ラス、却テ之ヲ獎勵

宗徒糾問所

煽動スルノ具トナリ、屢殘酷非常ノ光景ヲ發揮スルアリ、若シ此ノ國民ヲ使テ、斯ノ如ク惻誠篤實ナラス、聊カ放恣怠慢ノ心情アラシメハ、其苛虐亦斯ノ如ク甚シカラザルベシ、然ルニ今其歴史ヲ閱スルニ、西班牙國ニ在リテハ、宗教ノ苛虐其ノ最重ノ分部ヲ占メ、其他ノ事跡ハ、悉ク之カ補助者ニ過キサレカ如シ、是ヲ以テ之ヲ思ハバ、其ハ宗教ハ熱心ハ、唯ニ其ハ苛虐ハ本源ニシテ、乃他日峻嚴ナル宗徒糾問所ハ、基礎カリト云フモ、亦決シテ不可ナカハハシ、斯ク野蠻ハ惡風ヲ構成シ、社會安寧ヲ妨害スル者ハ、其ハ本意ハ善不善ニ論ナク、直ニ宗徒ハ狂黨ト云ハサルハ、カヲス寧偽善ハ勝ルルニ如カサ

西班牙國民
ノ本分

ルナリ、夫レ慘酷苛虐ハ、嚴肅剛毅ノ弊ニシテ、偽善者決
シテ斯ノ如キノ害アラサルナリ、偽善者ハ唯ニ柔軟情
弱ニシテ、一世ニ阿諛シ、人ノ心意ヲ迎合シテ、以テ己レ
ヲ利セントスルニ過サルナリ、西班牙ニ於テハ、國民悃
誠ノ思念一偏ニ凝聚シ、萬事皆之ニ倚ラザルナク、故ニ
之ニ合スル者ヲ正道ト稱シ、之ニ外ル者ヲ異端邪説ト
シ、之ヲ排撃シ、之ヲ驅除スルヲ以テ、國民一般ノ本分ト
ナスニ至レリ、而メ其ノ人民此ノ本分ヲ盡ニ當リテ、其
ノ酷虐殘忍ノ行為ヲ逞シタル形情ハ、少シク法教ノ史
傳ヲ閱スル者ハ、皆知得スル所ナリ、而シテ今彼ノ宗徒糺
問所ノ官吏ヲ見レハ、皆志操清潔凡庸人士ニ非サル

的切ナル証

ハ、其ノ証蹟數多アリテ、且明白ナリト雖モ、今一々之ヲ
贅ヤス、此間惟其ノ事實ノ殊ニ曖昧ナラス、極メテ的切
ナル所ノ兩証ヲ掲クベシ、有名ナルローレント氏ハ宗
徒糺彈事件ノ緝史家ニシテ、其人曾テ其糺彈所ノ秘祿
ヲ探リ、能ク糺彈官吏ノ情況ヲ詳悉スル者ナリ、然ルニ
其ノ所為ノ苛虐ハ、口ヲ極メテ道德ノ汚點タルヲ説キ、
百方之ヲ尤ムルト雖モ、其ノ心術ノ純善ナルト、其ノ真
情至誠ニ出テタルニ至リテハ、往々之ヲ感嘆シ、曾テ之
ヲ排撃スルナシ、又是ヨリ前三十年、我英國教會ノ一
僧クウンセント氏ナル者、西班牙ニ遊ヒテ、其事ヲ記シ、
其ノ著書ヲ刷出セル一好書アリ、氏ハ從來新教ノ徒ニ

シテ、且英人タレハ、其ノ西班牙審官ノ處置ヲ疾惡スル
ヤ頗ル甚シカルヘント雖、亦更ニ之カ罪狀ヲ明言ス
ルコトナク、又其ノ一大支解ナル「ハルセロ」衙門ヲ記ス
ルニ及ンテハ、審官各其人ヲ得タルヲ説キ、又志操ノ誠
實邪曲ナラサルヲ稱讚セリ、

以上二節羅馬西班牙ヲ以テ前論ヲ証ス、

是等二國ノ事實ハ、此ノ如ク奇々怪々ナリト雖、能ク
萬邦ノ史乘ヲ閱セハ、尚ホ此他道德ノ心思ハ、以テ宗教上
ノ苛虐ヲ増スベクモ、曾テ抑制スルニ足ラザル所以ノ
好例証ヲ發見スヘシ、而メ苛虐減少ノ、智慧ノ上進ニ在
リト明言スル原由ハ、別ニ後文論スル所アレハ、此ニハ

苛虐減少

苛虐防過ノ
良法

智慧廣布ノ
功

專ラ苛虐防過ノ良法ハ、全ク仁愛道德ニアラズ、必ヤ智
慧ノ開進ノ上ニ求ムヘキヲ論述セントス、夫レ宗教ノ
毒ニ横罹セル者、只其ノ今日ニ顯ハル、者ノミヲ計フ
ト雖、固ヨリ其ノ多キニ勝ヘサル者アリ、其湮沒傳ハ
ラサル者、亦更ニ一層之ヨリ夥シカルベシ、況ンヤ獨リ
形體ニ免レテ心神ニ苦ム者ハ、史乘全ク之ヲ記スル能
ハサルヲヤ、是ヲ以テ之ヲ斷セハ、宗教ハ苛虐ハ、比類ナ
キ人間社會ハ大禍害ニシテ、之ニ反シテ社會ハ苛虐禍
害ヲ減少スル者ハ、智慧廣布ノ功ナリト謂フハ、キナリ
抑モ余輩既ニ聽ク所ヲ以テスルモ、宗教ノ為メニ古今
冤枉ニ陷ル者、其狀寔ニ人ヲ使テ惻然タラシム者多シ、

道ヲ守テ身ヲ殺シ、教ヲ執テ禍ニ罹リ、或ハ刀劍ノ下ニ倒レ、或ハ火焰ノ中ニ没ス、又只苛虐ノ為メニ脅カサレ、陽ニ本説ヲ棄テ、自己ノ好マサル所ノ教ヲ奉シ、偽善虚飾ヲ事トシ、垢ヲ含ミ、恥ヲ包ミ、怨ヲ吞ミ、憾ヲ抱テ、快々其ノ生ヲ送ルモノ、其ノ類枚舉指數スヘカラス、是レ即宗教苛虐ノ最大禍害ニシテ、是レカ為メニ我人間固有ノ真意ヲ韜晦シ、虚偽ヲ以テ安寧ヲ求メ、欺誣ヲ以テ幸福ヲ要シ、僥倖ヲ以テ刑戮ニ免ジ、トテ計リ、風ヲ成シ、俗ヲ移シ、遂ニ狡黠ハ人世ノ要具トナリ、輕薄ハ日常ノ習慣トナリ、人文地ヲ拂ヒ、世道全ク頽レ、惡事醜行、駸々日ニ長シ、人世ヲ使テ終ニ觀ル可カラザルハ、狀形ニ至ラ

レタリ、然ラハ世上衆多ノ諸惡行ハ、宗教苛虐ニ比スレハ、輕少憂フルニ足ラスト云フモ、決シテ激論ニ非サレハ、幸ニ方今是等大禍害ヲ掃蕩セハトスルハ、徒爾後繼出スルハ、ミナラス、智慧大ニ上進シ、畧之ヲ摧挫シ、漸ク其ノ氣焰ヲ收メシムタルハ、豈ニ吾輩ハ慶幸ト云ハサルハケンヤ、

以上一節宗教苛虐ノ減少ハ、智慧ノ上進ヨリ來ルヲ論ス

英國文明史

第四編

五

9
76
24

